

官報

號外

明治二十九年三月十九日

木曜日 内閣官報局

○第九回 貴族院議事速記録第二十八號

明治二十九年三月十八日(水曜日)午前十時五十分開議

議事日程 第二十八號 明治二十九年三月十八日

午前十時開議

第一 民法中修正案(政府提出衆議院送付)

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三 獣疫豫防法案(政府提出衆議院回付)

第四 日本勸業銀行法案(政府提出衆議院送付)

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第六 農工銀行法案(政府提出衆議院送付)

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第八 農工銀行補助法案(政府提出衆議院送付)

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十 復祿及復族祿ノ請願

第十一 地價特別修正ノ請願

第十二 山陽鐵道線延長ノ請願

第十三 排水器試驗場設置ノ請願

第十四 軍港及商港設置ノ請願

第十五 電話施設普及ノ請願

第十六 郡分合ニ關スル請願

會議議會會議會議會議會議會議

第一讀會 第一讀會 第一讀會

會

會

會

會

會

會

會

會

會

會

會

會

會

會

會

會

會

會

會計検査院法中改正法律案外二件特別委員
侯爵松平 康莊君 伯爵立花 寛治君 子爵河崎 實文君
岩村 高俊君 調所 廣丈君 男爵菊池 武臣君
渡 正元君 中島 永元君 諫早 家崇君

河川法案特別委員
伯爵大原 重朝君 子爵小笠原 壽長君 船越 衛君
長谷川 貞雄君 武井 守正君 水之江 浩君
裁判所ノ設立及位置並管轄區域ノ變更ニ關スル法律案特別委員
公爵徳川 家達君 伯爵中川 久成君 子爵伏原 宣足君
子爵津輕 承敘君 男爵神山 郡廉君 男爵楫取 素彦君
原田 一道君 児島 惟謙君 關田 可通君
大阪府下郡廢置法律案外八件特別委員
子爵林 友幸君 根岸 武香君 久保田 真吾君
佐藤清右衛門君 大塚 永藏君 櫻井伊兵衛君
山崎 懇三君 角田林兵衛君 五十嵐敬止君
富山縣下郡分離及廢置法律案外八件特別委員
船越 傷君 男爵金子 有卿君 野崎武吉郎君
紫垣伴 三君 林宗右衛門君 水之江 浩君
田部長右衛門君 山田莊左衛門君 中村雅眞君
鐵道敷設法中改正法律案特別委員
箕作 麟祥君 男爵小澤 武雄君 名村泰藏君
村田 保君 馬屋原 彰君 清浦奎吾君
山脇 玄君

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 昨十七日衆議院ヨリ政府提出銀行合併法案、移
民法案、靜岡縣下郡廢置法律案、岐阜縣下郡廢置及郡界變更法律案、愛媛縣
下郡廢置法律案ヲ受領致シマシテゴザイマス、今一ツ、ゴザイマス衆議院提出、
郡制改正法律案、是モ受領致シマシテゴザイマス、同日丸山作樂根岸武香君ヨ
リ九十三名ノ賛成ヲ以テ神祇ニ關スル官衙設置ノ建議案ヲ發議セラレマシテ
ゴザイマス、酒造稅法案外四件特別委員會ニ於キマシテ委員長ニ子爵谷干
城君、副委員長ニ男爵慎村正直君、輸入棉花海關稅免除法案特別委員會ニ於
キマシテ委員長ニ公爵近衛篤齊君、副委員長ニ田中芳男君當選ニナリマシテ
タニ依フテ其氏名ヲ書記官長ヲシテ朗讀致サセマス

(有賀書記官朗讀)

民法中修正案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付
候也

明治二十九年三月十六日

衆議院議長楠本正隆

(中根書記官長朗讀)

貴族院議事速記録第三十八號

明治二十九年三月十八日

議長ノ報告

民法中修正案 第一讀會

四三九

民法中修正案
民法第一編第二編第三編別冊ノ通定ム

此法律施行ノ期日ヘ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十三年法律第二十八號民法財產編財產取得編債權擔保編證據編八此
法律發布ノ日ヨリ廢止ス

(別冊)

民法

第一編 總則

第一章 人

第一節 私權ノ享有

第二節 能力

第三節 住所

第四節 失踪

第五節 法人ノ解散

第六節 罷免

第七節 法人ノ管理

第八節 意思表示

第九節 代理

第十節 無效及ヒ取消

第十一節 條件及ヒ期限

第十二節 取得時效

第十三節 消滅時效

第十四節 期間

第十五節 總則

第十六節 時效

第十七節 總則

第十八節 時效

第十九節 總則

第二十節 占有權

第二十一節 占有權ノ取得

第二十二節 占有權ノ效力

第二十三節 占有權ノ消滅

第二十四節 準占有

第二十五節 所有權

第二十六節 所有權ノ限界

第二十七節 共有

第二十八節 所有權ノ取得

第二十九節 地上權

第三十節 小作權

第六章 地役權
第七章 留置權
第八章 先取特權

第一節 先取特權ノ種類
第二款 一般ノ先取特權
第三款 不動產ノ先取特權
第四節 先取特權ノ順位

第一節 不動產ノ先取特權
第二節 動產質
第三節 不動產質
第四節 抵當權

第一節 權利質
第二節 抵當權
第三節 抵當權ノ消滅
第四節 權利質

第一節 債權
第二節 債權ノ效力
第三節 多數當事者ノ債權
第四節 債權ノ譲渡
第五節 債權ノ消滅

第一節 債權
第二節 不可分債務
第三款 連帶債務
第四款 保證債務
第五款 免除
第六款 混同
第七款 相殺

第一節 契約
第二節 總則
第三款 契約ノ成立
第四款 契約ノ效力
第五款 贈與
第六款 買賣

第一節 契約
第二節 總則
第三款 契約ノ成立
第四款 契約ノ效力
第五款 贈與
第六款 買賣

第一款 總則	第二款 買賣ノ效力
第五節 消費貸借	第六節 使用貸借
第七節 賃貸借	第八節 雇傭
第一款 總則	第二款 賃貸借ノ效力
第三款 賃貸借ノ終了	第九節 請負
第十節 委任	第十一節 寄託
第十二節 組合	第十三節 終身定期金
第十四節 和解	第十五節 事務管理
第三章 不法行為	第四章 不當利得
民法	
第一章 人	第一編 總則
第一節 私權ノ享有	第一節 私權ノ享有
第二條 外國人ハ法令又ハ條約ニ禁止アル場合ヲ除ク外私權ヲ享有ス	第二條 外國人ハ法令又ハ條約ニ禁止アル場合ヲ除ク外私權ヲ享有ス
第三條 満二十年ヲ以テ成年トス	第三條 満二十年ヲ以テ成年トス
第四條 未成年者カ法律行為ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルヘキ行爲ハ此限ニ在ラス	第四條 未成年者カ法律行為ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但單ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルヘキ行爲ハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得シタル財產ヲ處分スル亦同シ	第五條 法定代理人カ目的ヲ定メテ處分ヲ許シタル財產ハ其目的ノ範圍内ニ於テ未成年者隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得目的ヲ定メスシテ處分ヲ許シタル財產ヲ處分スル亦同シ
第六條 一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未成年者ハ其營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス	第六條 一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未成年者ハ其營業ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス
前項ノ場合ニ於テ未成年者カ未タ其營業ニ堪ヘサル事跡アルトキハ其法定代理人ハ親族編ノ規定ニ從ヒ其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得得	第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人、配偶者、四親等内ノ親族、戸主、後見人、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第八條 禁治產者ハ之ヲ後見ニ付ス
第九條 禁治產者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
第十條 禁治產ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第七條ニ掲タル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ要ス
第十一條 心神耗弱者、聾者、啞者、盲者及ヒ浪費者ハ準禁治產者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得
第十二條 準禁治產者カ左ニ掲タル行爲ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
第十三條 第八條ノ規定ハ準禁治產ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
第十四條 第九條及ヒ第十條ノ規定ハ準禁治產ニ之ヲ準用ス
第十五條 第七條ニ定メタル期間ヲ超ユル賃貸借ヲ爲スコト
第十六條 前項ニ依リ準禁治產者カ前項ニ掲タル行爲ヲ爲スニモ亦其保佐人ノ同意アルコトヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得
第十七條 前二項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
第十八條 第十二條第一項第一號乃至第六號ニ掲タル行爲ヲ爲スコト
第十九條 一、贈與若クハ遺贈ヲ受諾シ又ハ之ヲ拒絶スルコト 二、身體ニ羈絆ヲ受クヘキ契約ヲ爲スコト 三、身體ニ羈絆ヲ受クヘキ契約ヲ爲スコト
前項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
第二十條 夫カ妻ヲ遺棄シタルトキ
第二十一條 夫カ禁治產者又ハ準禁治產者ナルトキ
第二十二條 夫カ瘋癲ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セラルトキ
第二十三條 夫カ禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑ノ執行中ニ在ルトキ
第二十四條 夫カ未成年者ナルトキハ第四條ノ規定ニ依ルニ非サレハ妻ノ行爲ヲ許可スルコトヲ得ス
第二十五條 夫婦ノ利益相反スルトキ
第二十六條 無能力者ノ相手方ハ其無能力者カ能力者ト爲リタル後之ニ對シ

チ一个月以上ノ期間内ニ其取消シ得ヘキ行爲ヲ追認スルヤ否ヤヲ確答ス
ヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ無能力者カ其期間内ニ確答ヲ發セサルト
キハ其行爲ヲ追認シタルモノト看做ス

無能力者カ未タ能力者トナラサル時ニ於テ夫又ハ法定代理人ニ對シ前項
ノ催告ヲ爲スモ其期間内ニ確答ヲ發セサルトキ亦同シ但法定代理人ニ對
シテハ其權限内ノ行爲ニ付テノミ此催告ヲ爲スコトヲ得

特別ノ方式ヲ要スル行爲ニ付テハ右ノ期間内ニ其方式ヲ踐ミタル通知ヲ
發セサルトキハ之ヲ取消シタルモノト看做ス

準禁治產者及ヒ妻ニ對シテハ第一項ノ期間内ニ保佐人ノ同意又ハ夫ノ許
可ヲ得テ其行爲ヲ追認スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ準禁治產者又ハ妻
カ其期間内ニ右ノ同意又ハ許可ヲ得タル通知ヲ發セサルトキハ之ヲ取消
シタルモノト看做ス

第二十條 無能力者カ能力者タルコトヲ信セシムル爲メ詐術ヲ用井タルト
其行爲ヲ取消スコトヲ得ス

第三節 住所

第一十一條 各人ノ生活ノ本據ヲ以テ其住所トス

第一十二條 住所ノ知レサル場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所ト看做ス

第一十三條 日本ニ住所ヲ有セサル者ハ其日本人タルト外國人タルトヲ問
ハス日本ニ於ケル居所ヲ以テ其住所ト看做ス但法例ノ定ムル所ニ從ヒ其

住所ノ法律ニ依ルヘキ場合ハ此限ニ在ラス
第二十四條 或行爲ニ付キ假住所ヲ選定シタルトキハ其行爲ニ關シテハ之
ヲ住所ト看做ス

第四節 失踪

第二十五條 從來ノ住所又ハ居所ヲ去リタル者カ其財產ノ管理人ヲ置カサ
リシトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其財產ノ管理ニ付
キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得本人ノ不在中管理人ノ權限カ消滅シタ
ルトキ亦同シ

本人カ後日ニ至リ管理人ヲ置キタルトキハ裁判所ハ其管理人、利害關係
人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命令ヲ取消スコトヲ要ス

第二十六條 不在者カ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其不在者ノ生死分明ナ
ラサルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ管理人ヲ改任ス
ルコトヲ得

第二十七條 前二條ノ規定ニ依リ裁判所ニ於テ選任シタル管理人ハ其管理
スヘキ財產ノ目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但其費用ハ不在者ノ財產ヲ以テ
之ヲ支辨ス

不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ利害關係人又ハ檢事ノ請求アルト
キハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得
右ノ外總テ裁判所カ不在者ノ財產ノ保存ニ必要ト認ムル處分ハ之ヲ管理
人ニ命スルコトヲ得

第二十八條 管理人カ第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスル
トキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得不在者ノ生死分明ナラサル
場合ニ於テ其管理人カ不在者ノ定メ置キタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要ト

スルトキ亦同シ
第二十九條 裁判所ハ管理人ヲシテ財產ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保
ヲ供セシムルコトヲ得

裁判所ハ管理人ト不在者トノ關係其他ノ事情ニ依リ不在者ノ財產中ヨリ
相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ得

第三十條 不在者ノ生死カ七年間分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係
人ノ請求ニ因リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

戰地ニ臨ミタル者、沈沒シタル船舶中ニ在リタル者其他死亡ノ原因タル
ヘキ危難ニ遭遇シタル者ノ生死カ戰爭ノ止ミタル後、船舶ノ沈沒シタル
後又ハ其他ノ危難ノ去リタル後二年間分明ナラサルトキ亦同シ

第三十一條 失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ前條ノ期間満了ノ時ニ死亡シタル
モノト看做ス

第三十二條 失踪者ノ生存スルコト又ハ前條ニ定メタル時ト異ナリタル時
ニ死亡シタルコトノ證明アルトキハ裁判所ハ本人又ハ利害關係人ノ請求
ニ因リ失踪ノ宣告ヲ取消スコトヲ要ス但失踪ノ宣告後其取消前ニ善意ヲ
以テ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セス

失踪ノ宣告ニ因リテ財產ヲ得タル者ハ其取消ニ因リテ權利ヲ失フモ現ニ
利益ヲ受クル限度ニ於テノミ其財產ヲ返還スル義務ヲ負フ

第二章 法人

第一節 法人ノ設立

第三十三條 法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ成立スルコト
ヲ得ス

第三十四條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財
團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲
スコトヲ得

第三十五條 營利ヲ目的トスル社團ハ商事會社ニ關スル規定ヲ準用ス
ト爲スコトヲ得

第三十六條 外國法人ハ國、國ノ行政區畫及ヒ商事會社ヲ除ク外其成立ヲ
認許セス但法律又ハ條約ニ依リテ認許セラレタルモノハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依リテ認許セラレタル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者
ト同一ノ私權ヲ有ス但外國人カ享有スルコトヲ得サル權利及ヒ法律又ハ

條約中ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス
第三十七條 社團法人ノ設立者ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコト
ヲ要ス

一 目的

五 理事ノ任免ニ關スル規定

二 名稱

四 資產ニ關スル規定

三 事務所

六 社員タル資格ノ得喪ニ關スル規定

第三十八條 社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限

リ之ヲ變更スルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
定款ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第三十九條 財團法人ノ設立者ハ其設立ヲ目的トスル寄附行爲ヲ以テ第三
十七條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十條 財團法人ノ設立者カ其名稱、事務所又ハ理事任免ノ方法ヲ定
メズシテ死亡シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ之
ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十一條 生前處分ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ストキハ贈與ニ關スル規定ヲ準
用ス

遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲ストキハ遺贈ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十二條 生前處分ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタルトキハ寄附財產ハ法人設
立ノ許可アリタル時ヨリ法人ノ財產ヲ組成ス

遺言ヲ以テ寄附行爲ヲ爲シタルトキハ寄附財產ハ遺言カ效力ヲ生シタル
時ヨリ法人ニ歸屬シタルモノト看做ス

第四十三條 法人ハ法令ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行爲ニ因リテ定マリタ
ル目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタ
ル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキ
ハ其事項ノ議決ヲ贊成シタル社員、理事及セ之ヲ履行シタル理事其他ノ
代理人連帶シテ其賠償ノ責ニ任ス

第四十五條 法人ハ其設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ登
記ヲ爲スコトヲ要ス

法人ノ設立ハ其主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ
以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

法人設立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ一週間内ニ登記ヲ爲スコトヲ
要ス

第四十六條 登記スヘキ事項左ノ如シ

一 目的
二 設立許可ノ年月日
三 設立時期ヲ定メタルトキハ其時期
四 存立時
五 資產ノ總額
六 出資ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法
七 理事ノ氏名、住所
八 前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ其登記ヲ爲ス
コトヲ要ス登記前ニ在リテハ其變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條 第四十五條第一項及ヒ前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシ
テ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ
起算ス

第四十八條 法人カ其事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間
内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ第四十六條第一項ニ
定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條 第四十五條第三項、第四十六條及ヒ前條ノ規定ハ外國法人カ
日本ニ事務所ヲ設クル場合ニモ亦之ヲ適用ス但外國ニ於テ生シタル事項
ニ付テハ其通知ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
外國法人カ始メテ日本ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其事務所ノ所在地ニ於
テ登記ヲ爲スマテハ他人ハ其法人ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス
第五十一條 法人ハ設立ノ時及ヒ毎年初ノ三個月内ニ財產目錄ヲ作リ常ニ
之ヲ事務所ニ備へ置クコトヲ要ス但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ設立ノ
時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス
社團法人ハ社員名簿ヲ備へ置キ社員ノ變更アル毎ニ之ヲ訂正スルコトヲ
要ス

第二節 法人ノ管理

第五十二條 法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クコトヲ要ス
理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ
事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五十三條 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但定款ノ規定又
寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ス又社團法人ニ在リテハ總會ノ決議
ニ從フコトヲ要ス

第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗
スルコトヲ得ス

第五十五條 理事ハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサ
ルトキニ限リ特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十六條 理事ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルト
キハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任スルコトヲ
要ス

第五十七條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有
セス此場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要

第五十八條 法人ニハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人
ノ監事ヲ置クコトヲ得

第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ

一 法人ノ財產ノ狀況ヲ監査スルコト
二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト
三 財產ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉アルコトヲ發見シタル
トキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告スルコト

四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ招集スルコト
第六十條 社團法人ノ理事ハ少クトモ毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコ
トヲ要ス

第六十一條 社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總
會院議事速記録第三十八號 明治二十九年三月十八日 民法中修正案 第一讀會

會ヲ招集スルコトヲ得
總社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタル
トキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此定數ハ定款ヲ以テ之ヲ

増減スルコトヲ得

第六十二條 總會ノ招集ハ少クトモ五日前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シ

定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ

第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタルモ事項ニ付テノミ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第六十五條 各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

總會ニ出席セサル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出タスコトヲ得

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第六十六條 社團法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其社員ハ表決權ヲ有セス

第六十七條 法人ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ何時ニテモ職權ヲ以テ法人ノ業務及ヒ財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二節 法人ノ解散

第六十八條 法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一定款又ハ寄附行為ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生

二 法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

三 破産

四 設立許可ノ取消

一 總會ノ決議

社團法人ハ前項ニ掲ケタル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス

二 社員ノ缺亡

六十九條 社團法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散

ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十條 法人カ其債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ理事ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公

第七十一條 法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ設立ノ許可ヲ得タル條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其許可ヲ取消スコトヲ得

第七十二條 解散シタル法人ノ財產ハ定款又ハ寄附行為ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス

定款又ハ寄附行為ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似セル

目的ノ爲メニ其財產ヲ處分スルコトヲ得但社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレサル財產ハ國庫ニ歸屬ス
第七十三條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其清算ノ結了ニ至ルマテ尙ホ存續スルモノト看做ス

第七十四條 法人カ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但定款若クハ寄附行為ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第七十五條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十六條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十七條 清算人ハ破産ノ場合ヲ除ク外解散後一週間内ニ其氏名、住所及ヒ解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ居出ツルコトヲ要ス

第七十八條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十九條 清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行為ヲ爲スコトヲ得

清算人ハ其就職ノ日ヨリ二ヶ月内ニ少タトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス

第八十條 清算人ハ前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲サルトキハ其債權ハ清算ヨリ除斥セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス

清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ得

第八十一條 清算中ニ法人ノ財產カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公

告スルコトヲ要ス

清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

第八十二條 法人ノ解散及ヒ清算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第八十三條 清算カ結了シタルトキハ清算人ハ之ヲ主務官廳ニ居出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第八十四條 法人ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

一 本章ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
二 第五十一条ノ規定ニ違反シ又ハ財産目録若クハ社員名簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 第六十七条又ハ第八十二条ノ場合ニ於テ主務官廳又ハ裁判所ノ検査ヲ妨ケタルトキ

四 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

五 第七十條又ハ第八十一条ノ規定ニ反シ破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

六 第七十九條又ハ第八十一条ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第三章 物

第八十五条 本法ニ於テ物トハ有體物ヲ謂フ

第八十六条 土地及ヒ其定著物ハ之ヲ不動產トス

此他ノ物ハ總テ之ヲ動產トス

無記名債權ハ之ヲ動產ト看做ス

第八十七条 物ノ所有者カ其物ノ常用ニ供スル爲メ自己ノ所有ニ屬スル他

ノ物ヲ以テ之ニ附屬セシメタルトキハ其附屬セシメタル物ヲ從物トス

從物ハ主物ノ處分ニ隨フ

第八十八条 物ノ用方ニ從ヒ收取スル產出物ヲ天然果實トス

物ノ使用ノ對價トシテ受クヘキ金錢其他ノ物ヲ法定果實トス

第八十九條 天然果實ハ其元物ヨリ分離スル時ニ之ヲ收取スル權利ヲ有ス

ル者ニ屬ス

法定果實ハ之ヲ收取スル權利ノ存續期間日割ヲ以テ之ヲ取得ス

第四章 法律行爲

第一節 總則

第九十条 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲

ハ無效トス

第九十一条 法律行爲ノ當事者カ法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナ

リタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

ニ於テ法律行爲ノ當事者カ之ニ依ル意思ヲ有セルモノト認ムヘキトキハ

其慣習ニ從フ

第二節 意思表示

第九十三条 意思表示ハ表意者カ其真意ニ非サルコトヲ知リテ之ヲ爲シタル

ル爲メ其效力ヲ妨ケラルコトナシ但相手方カ表意者ノ真意ヲ知リ又ハ

之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ其意思表示ハ無效トス

第九十四条 相手方ト通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ハ無效トス

前項ノ意思表示ノ無效ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九十五条 意思表示ハ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無效トス但

表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無效ヲ主張スルコトヲ得ス

第九十六条 詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得

或人ニ對スル意思表示ニ付キ第三者カ詐欺ヲ行ヒタル場合ニ於テハ相手

方カ其事實ヲ知リタルトキニ限り其意思表示ヲ取消スコトヲ得

詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九十七条 隔地者ニ對スル意思表示ハ其通知ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ其效力ヲ生ス

表意者カ通知ヲ發シタル後ニ死亡シ又ハ能力ヲ失フモ意思表示ハ之カ爲ス

メニ其效力ヲ妨ケラルコトナシ

第九十八条 意思表示ノ相手方カ之ヲ受ケタル時ニ未成年者又ハ禁治產者ナリシトキハ其意思表示ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス但其法定代理人カ之ヲ知リタル後ハ此限ニ在ラス

第九十九條 代理人カ其權限内ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ爲シタル意思表示ハ直接ニ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ第三者カ代理人ニ對シテ爲シタル意思表示ニ之ヲ準用ス

第一百條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サシテ爲シタル意思表示ハ自己ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但相手方カ其本人ノ爲メニスルコトヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第一百一條 意思表示ノ效力カ意思ノ欠缺、詐欺、強迫又ハ或事情ヲ知リタルコト若クハ之ヲ知ラサル過失アリタルコトニ因リテ影響ヲ受クヘキ場合ニ於テ其事實ノ有無ハ代理人ニ付キ之ヲ定ム

特定ノ法律行爲ヲ爲スコトヲ委託セラレタル場合ニ於テ代理人カ本人ノ指圖ニ從ヒ其行爲ヲ爲シタルモノト看做ス但相手方カ其自ラ知リタル事情ニ付キ代理人ノ不知ヲ主張スルコトヲ得ス其過失ニ因リテ知ラサリシ事情ニ付キ亦同シ

第一百二條 代理人ハ能力者タルコトヲ要セス

第一百三條 權限ノ定ナキ代理人ハ左ノ行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有ス

一 保存行爲

二 代理ノ目的タル物又ハ權利ノ性質ヲ變セサル範圍内ニ於テ其利用

又ハ改良ヲ目的トスル行爲

委任ニ因ル代理人ハ本人ノ許諾ヲ得タルトキ又ハ已ムコトヲ得

サル事由アルトキニ非サレハ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ス

第一百五條 代理人カ前條ノ場合ニ於テ復代理人ヲ選任シタルトキハ選任及

ヒ監督ニ付キ本人ニ對シテ其責ニ任ス

代理人カ本人ノ指名ニ從ヒテ復代理人ヲ選任シタルトキハ其不適任又ハ

不誠實ナルコトヲ知リテ之ヲ本人ニ通知シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ怠リ

タルニ非サレハ其責ニ任セス

第一百六條 法定代理人ハ其責任ヲ以テ復代理人ヲ選任スルコトヲ得但已ム

コトヲ得サル事由アリタルトキハ前條第一項ニ定メタル責任ノミヲ負フ
第百七條 復代理人ハ其權限内ノ行爲ニ付キ本人ヲ代表ス
復代理人ハ本人及ヒ第三者ニ對シテ代理人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第百八條 何人ト雖モ同一ノ法律行爲ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ
當事者雙方ノ代理人ト爲ルコトヲ得ス但債務ノ履行ニ付テハ此限ニ在ラ
代理權ノ範圍内ニ於テ其他人ト第三者トノ間ニ爲シタル行爲ニ付キ其責
ニ任ス

第百九條 第三者ニ對シテ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタル者ハ其
代理權ノ範圍内ニ於テ其他人ト第三者トノ間ニ爲シタル行爲ニ付キ其責
ニ任ス

第一百條 代理人カ其權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權限
アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第一百一條 代理權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

一 本人ノ死亡

二 代理人ノ死亡、禁治產又ハ破產

此他委任ニ因ル代理權ハ委任ノ終了ニ因リテ消滅ス

第一百十二條 代理權ノ消滅ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
但第三者カ過失ニ因リテ其事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第一百十三條 代理權ヲ有セサル者カ他人ノ代理人トシテ爲シタル契約ハ本
人カ其追認ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ其相手方

追認又ハ其拒絕ハ相手方ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ其相手方

ニ對抗スルコトヲ得ス但相手方カ其事實ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第一百十四條 前條ノ場合ニ於テ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ追認
ヲ爲スヤ否ヤコトヲ確定スヘキ旨ヲ本人ニ催告スルコトヲ得若シ本人カ其期
間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ追認ヲ拒絶シタルモノト看做ス

第一百十五條 代理權ヲ有セサル者ノ爲シタル契約ハ本人ノ追認ナキ間ハ相
手方ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得但契約ノ當時相手方カ代理權ナキコトヲ
知リタルトキハ此限ニ在ラス

第一百十六條 追認ハ別段ノ意思表示ナキトキハ契約ノ時ニ遡リテ其效力ヲ
生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第一百十七條 他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其代理權ヲ證明スル
コト能ハス且本人ノ追認ヲ得サリシトキハ相手方ノ選擇ニ從ヒ之ニ對シ
テ履行又ハ損害賠償ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ相手方カ代理人ト稱スル者ノ
代理權ナクシテ之ヲ爲スコトニ同意シ又ハ其代理權ヲ爭ハサリシトキニ
限り前五條ノ規定ヲ準用ス代理權ヲ有セサル者ニ對シ其同意ヲ得テ單獨
行為ヲ爲シタルトキ亦同シ

第一百八條 單獨行為ニ付テハ其行為ノ當時相手方カ代理人ト稱スル者ノ
代理權ナクシテ之ヲ爲スコトニ同意シ又ハ其代理權ヲ爭ハサリシトキニ
限り前五條ノ規定ヲ準用ス代理權ヲ有セサル者ニ對シ其同意ヲ得テ單獨
行為ヲ爲シタルトキ亦同シ

第一百九條 無效ノ行為ハ追認ニ因リテ其效力ヲ生セス但當事者カ其無效
ナルコトヲ知リテ追認ヲ爲シタルトキハ新ナル行為ヲ爲シタルモノト看

做ス
第一百二十條 取消シ得ヘキ行為ハ無能力者若クハ環褫アル意思表示ヲ爲
シタル者、其代理人又ハ承繼人ニ限り之ヲ取消スコトヲ得
妻カ爲シタル行為ハ夫モ亦之ヲ取消スコトヲ得

第一百二十一條 取消シタル行為ハ初ヨリ無効ナリシモノト看做ス但無能力
者ハ其行為ニ因リテ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ償還ノ義務ヲ負フ
第一百二十二條 取消シ得ヘキ行為ハ第百二十條ニ掲ケタル者カ之ヲ追認シ
タルトキハ初ヨリ有效ナリシモノト看做ス但第三者ノ權利ヲ害スルコト
ヲ得ス

第一百二十三條 取消シ得ヘキ行為ノ相手方カ確定セル場合ニ於テ其取消又
ハ追認ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第一百二十四條 追認ハ取消ノ原因タル情況ノ止ミタル後之ヲ爲スニ非サレ
ハ其效ナシ

禁治產者カ能力ヲ回復シタル後其行為ヲ了知シタルトキハ其了知シタル
後ニ非サレハ追認ヲ爲スコトヲ得ス

第一百二十五條 前條ノ規定ニ依リ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ後取消シ得
ヘキ行為ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス但
異議ヲ留メタルトキハ此限ニ在ラス

一 全部又ハ一部ノ履行

二 履行ノ請求

三 更改

四 擔保ノ供與

五百 取消シ得ヘキ行為ニ因リテ取得シタル權利ノ全部又ハ一部ノ讓渡

六 強制執行

第一百二十六條 取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサル
トキハ時效ニ因リテ取消ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第五節 條件及ヒ期限

第一百二十七條 停止條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス
解除條件附法律行爲ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ失フ

当事者カ條件成就ノ效果ヲ其成就以前ニ遡ラシムル意思ヲ表示シタルト
キハ其意思ニ從フ

第一百二十八條 條件附法律行爲ノ各當事者ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ條
件ノ成就ニ因リ其行為ヨリ生スヘキ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス

第一百二十九條 條件ノ成否未定ノ間ニ於ケル當事者ノ權利義務ハ一般ノ規
定ニ從ヒ之ヲ處分、相續、保存又ハ擔保スルコトヲ得

第一百三十條 條件ノ成就ニ因リテ不利益ヲ受クヘキ當事者カ故意ニ其條
件ノ成就ヲ妨ケタルトキハ相手方ハ其條件ヲ成就シタルモノト看做スコ
トヲ得

第一百三十一條 條件カ法律行爲ノ當時既ニ成就セル場合ニ於テ其條件カ停
止條件ナルトキハ其法律行爲ハ無條件トシ解除條件ナルトキハ無效トス
條件ノ不成就カ法律行爲ノ當時既ニ確定セル場合ニ於テ其條件カ停止條

第一節 無效及ヒ取消

第一百九十九條 無效ノ行為ハ追認ニ因リテ其效力ヲ生セス但當事者カ其無效
ナルコトヲ知リテ追認ヲ爲シタルトキハ新ナル行為ヲ爲シタルモノト看

(八)

件ナルトキハ其法律行爲ハ無效トシ解除條件ナルトキハ無條件トス

前二項ノ場合ニ於テ當事者カ條件ノ成就又ハ不成就ヲ知ラサル間ハ第百

二十八條及ヒ第百二十九條ノ規定ヲ準用ス

第一百三十二條 不法ノ條件ヲ附シタル法律行爲ハ無效トス不法行爲ヲ爲サ

サルヲ以テ條件トスルモノ亦同シ

第一百三十三條 不能ノ停止條件ヲ附シタル法律行爲ハ無效トス

不能ノ解除條件ヲ附シタル法律行爲ハ無條件トス

第一百三十四條 停止條件附法律行爲ハ其條件カ單ニ債務者ノ意思ノミニ係

第一百三十五條 法律行爲ニ始期ヲ附シタルトキハ其法律行爲ノ履行ハ期限

ノ到来スルマテ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第一百三十六條 期限ハ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト推定ス

期限ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得但之カ爲メニ相手方ノ利益ヲ害スル

コトヲ得ス

第一百三十七條 左ノ場合ニ於テハ債務者ハ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得

一 債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

二 債務者カ擔保ヲ毀滅シ又ハ之ヲ減少シタルトキ

三 債務者カ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ供セサルトキ

第五章 期間

第一百三十八條 期間ノ計算法ハ法令、裁判上ノ命令又ハ法律行爲ニ別段ノ

定アル場合ヲ除ク外本章ノ規定ニ從フ

第一百三十九條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算

ス

第一百四十條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ

初日ハ之ヲ算入セス但其期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此限ニ在ラ

ス

第一百四十一條 前條ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ満了ト

ス

第一百四十二條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當タルトキハ其

日ニ取引ヲ爲ササル慣習アル場合ニ限り期間ハ其翌日ヲ以テ満了ス

第一百四十三條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ暦ニ從ヒ

テ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ満了ス但月又ハ年ヲ以定期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其月ノ末日ヲ以テ満期日トス

第六章 時效

第一節 總則

第一百四十四條 時效ノ效力ハ其起算日ニ遡ル

第一百四十五條 時效ハ當事者カ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所之ニ依リテ

裁判ヲ爲スコトヲ得ス

第一百四十六條 時效ノ利益ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第一百四十七條 時效ハ左ノ事由ニ因リテ中斷ス

一 請求
二 差押、假差押又ハ假處分
三 承認

第一百四十八條 前條ノ時效中斷ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ於テノミニ其效

力ヲ有ス

第一百四十九條 裁判上ノ請求ハ訴ノ却下又ハ取下ノ場合ニ於テハ時效中斷

ノ效力ヲ生セス

第一百五十條 支拂命令ハ権利拘束カ其效力ヲ失フトキハ時效中斷ノ效力

ヲ生セス

第一百五十一條 和解ノ爲メニスル呼出ハ相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハ

サルトキハ一个月内ニ訴ヲ提起スルニ非サレハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

任意出頭ノ場合ニ於テ和解ノ調ハサルトキ亦同シ

第一百五十二條 破産手續參加ハ債權者カ之ヲ取消シ又ハ其請求カ却下セラ

レタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第一百五十三條 催告ハ六个月内ニ裁判上ノ請求、和解ノ爲メニスル呼出若

クハ任意出頭、破産手續參加、差押、假差押又ハ假處分ヲ爲スニ非サレハ

時效中斷ノ效力ヲ生セス

第一百五十四條 差押、假差押及ヒ假處分ハ権利者ノ請求ニ因リ又ハ法律ノ

規定ニ從ハサルニ因リテ取消サレタルトキハ時效中斷ノ效力ヲ生セス

第一百五十五條 差押、假差押及ヒ假處分ハ時效ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ

之ヲ爲ササルトキハ之ヲ其者ニ通知シタル後ニ非サレハ時效中斷ノ效力

ヲ生セス

第一百五十六條 時效中斷ノ效力ヲ生スヘキ承認ヲ爲スニハ相手方ノ権利ニ

付キ處分ノ能力又ハ權限アルコトヲ要セス

第一百五十七條 中斷シタル時效ハ其中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ其

進行ヲ始ム

裁判上ノ請求ニ因リテ中斷シタル時效ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其

進行ヲ始ム

第一百五十九條 時效ノ期間滿了前六个月内ニ於テ未成年者又ハ禁治產者カ

スル權利ニ付テハ其者カ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタ

ル時ヨリ六个月内ハ時效完成セス

妻カ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ婚姻解消ノ時ヨリ六个月内亦同シ

第一百六十條 相續財產ニ關シテハ相續人ノ確定シ、管理人ノ選任セラ

又ハ破産ノ宣告アリタル時ヨリ六个月内ハ時效完成セス

第一百六十一條 時效ノ期間満了ノ時ニ當ダリ天災其他避クヘカラサル事變

ノ爲メ時效ヲ中斷スルコト能ハサルトキハ其妨碍ノ止ミタル時ヨリ一週間内ハ時效完成セス

第二節 取得時效

第一百六十二條 二十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ物ヲ占有シタル者ハ其所有權ヲ取得ス

十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ不動產ヲ占有シタル者カ其占有ノ始善意ニシテ且過失ナカリシトキハ其不動產ノ所有權ヲ取得ス

第一百六十三條 所有權以外ノ財產權ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ平穩且公然ニ行使スル者ハ前條ノ區別ニ從ヒ二十年又ハ十年ノ後其權利ヲ取得ス

第一百六十四條 第百六十二條ノ時效ハ占有者カ任意ニ其占有ヲ中止シ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ奪ハレタルトキハ中斷ス

第一百六十五條 前條ノ規定ハ第百六十三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三節 消滅時效

第一百六十六條 消滅時效ハ權利ヲ行使スルコトヲ得ル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ始期附又ハ停止條件附權利ノ目的物ヲ占有スル第三者ノ爲メニ其占有ノ時ヨリ取得時效ノ進行スルコトヲ妨ケス但權利者ハ其時效ヲ中斷スル爲メ何時ニテモ占有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ得

第一百六十七條 債權ハ十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

債權又ハ所有權ニ非サル財產權ハ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第一百六十八條 定期金ノ債權ハ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス最後ノ辨濟期ヨリ十年間之ヲ行ハサルトキモ亦同シ

定期金ノ債權者ハ時效中斷ノ證ヲ得ル爲メ何時ニテモ其債務者ノ承認書ヲ求ムルコトヲ得

第一百六十九條 年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定期タル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第一百七十條 左ニ掲ケタル債權ハ三年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 医師、産婆及ヒ薬剤師ノ治術、勤勞及ヒ調劑ニ關スル債權

第一百七十一條 辨護士ハ事件終了ノ時ヨリ公證人及ヒ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ其職務ニ關シテ受取リタル書類ニ付キ其責ヲ免ル

第一百七十二條 辨護士、公證人及ヒ執達吏ノ職務ニ關スル債權ハ其原因タル事件終了ノ時ヨリ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス但其事件中各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ右ノ期間内ト雖モ其事項ニ關スル債權ハ消滅ス

第一百七十三條 左ニ掲ケタル債權ハ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 生産者、卸賣商人及ヒ小賣商人カ賣却シタル產物及ヒ商品ノ代價

二 居職人及ヒ製造人ノ仕事ニ關スル債權

三 生徒及ヒ習業者ノ教育、衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校主、塾主、

教師及ヒ師匠ノ債權
第一月又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定期タル

左ニ掲ケタル債權ハ一年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

二 勞力者及ヒ藝人ノ賃金並ニ其供給シタル物ノ代價

三 運送貨物代價並ニ立替金

四 旅店、料理店、貸席及ヒ遊樂場ノ宿泊料、飲食料、席料、木戸錢、消費

五 動產ノ損料

第二編 物權

第一章 總則

第一百七十五條 物權ハ本法其他ノ法律ニ定ムルモノノ外之ヲ創設スルコトヲ得ス

第一百七十六條 物權ノ設定及ヒ移轉ハ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其效力ヲ生ス

第一百七十七條 不動產ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第一百七十八條 動產ニ關スル物權ノ讓渡ハ其動產ノ引渡アルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第一百七十九條 同一物ニ付キ所有權及ヒ之ヲ目的トスル他ノ權利カ同一人ニ歸シタルトキハ其權利ハ消滅ス此場合ニ於テハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

所有權以外ノ物權及ヒ之ヲ目的トスル他ノ權利カ同一人ニ歸シタルトキハ其權利ハ消滅ス此場合ニ於テハ前項但書ノ規定ヲ適用セス

第二章 占有權

第一節 占有權ノ取得

第一百八十條 占有權ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スルニ因リテ之ヲ取得ス

第一百八十一條 占有權ハ代理人ニ依リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第一百八十二條 占有權ノ讓渡ハ占有物ノ引渡ニ依リテ之ヲ爲ス

讓受人又ハ其代理人カ現ニ占有物ヲ所持スル場合ニ於テハ占有權ノ讓渡ハ當事者ノ意思表示ノミニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第一百八十三條 代理人カ自己ノ占有物ヲ爾後本人ノ爲メニ占有スヘキ意思ヲ表示シタルトキハ本人ハ之ニ因リテ占有權ヲ取得ス

第一百八十四條 代理人ニ依リテ占有ヲ爲ス場合ニ於テ本人カ其代理人ニ對シ爾後第三者ノ爲メニ其物ヲ占有スヘキ旨ヲ命シ第三者之ヲ承諾シタルトキハ其第三者ハ占有ヲ取得ス

第一百八十五條 權原ノ性質上占有者ニ所有ノ意思ナキモノトスル場合ニ於テハ其占有者カ自己ニ占有ヲ爲サシメタル者ニ對シ所有ノ意思アルコトヲ表示シ又ハ新權原ニ因リ更ニ所有ノ意思ヲ以テ占有ヲ始ムルニ非サレハ占有ハ其性質ヲ變セス

第一百八十六條 占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善意、平穩且公然ニ占有ヲ爲ス

モノト推定ス
前後兩時ニ於テ占有ヲ爲シタル證據アルトキハ占有ハ其間繼續シタルモノト推定ス

第一百八十七條 占有者ノ承繼人ハ其選擇ニ從ヒ自己ノ占有ノミヲ主張シ又ハ自己ノ占有ニ前主ノ占有ヲ併セテ之ヲ主張スルコトヲ得

前主ノ占有ヲ併セテ主張スル場合ニ於テハ其瑕疵モ亦之ヲ承繼ス

第二節 占有權ノ效力

第一百八十八條 占有者カ占有物ノ上ニ行使スル權利ハ之ヲ適法ニ有スルモノト推定ス

第一百八十九條 善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生スル果實ヲ取得ス

善意ノ占有者カ本權ノ訴ニ於テ敗訴シタルトキハ其起訴ノ時ヨリ惡意ノ占有者ト看做ス

第一百九十條 惡意ノ占有者ハ果實ヲ返還シ且其既ニ消費シ過失ニ因リテ毀損シ又ハ收取ヲ怠リタル果實ノ代價ヲ償還スル義務ヲ負フ

前項ノ規定ハ強暴又ハ隱祕ニ因ル占有者ニ之ヲ準用ス

第一百九十一條 占有物カ占有者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ惡意ノ占有者ハ其回復者ニ對シ其損害ノ全部ヲ賠償スル義務ヲ負ヒ

ト雖モ全部ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第一百九十二條 平穩且公然ニ動產ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ヲキトキハ即時ニ其動產ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第一百九十三條 前條ノ場合ニ於テ占有物カ盜品又ハ遺失物ナルトキハ被害者又ハ遺失主ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二年間占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得ス

第一百九十四條 占有者カ盜品又ハ遺失物ヲ競賣若クハ公ノ市場ニ於テ又ハ其物ト同種ノ物ヲ販賣スル商人ヨリ善意ニテ買受ケタルトキハ被害者又ハ遺失主ハ占有者カ拂ヒタル代價ヲ辨償スルニ非サレハ其物ヲ回復スルコトヲ得ス

第一百九十五條 他人カ飼養セシ家畜外ノ動物ヲ占有スル者ハ其占有ノ始善意ニシテ且逃失ノ時ヨリ一個月内ニ飼養主ヨリ回復ノ請求ヲ受ケサルトキハ其動物ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第一百九十六條 占有者カ占有物ヲ返還スル場合ニ於テハ其物ノ保存ノ爲メニ費シタル金額其他ノ必要費ヲ回復者ヨリ償還セシムルコトヲ得但占有者カ果實ヲ取得シタル場合ニ於テハ通常ノ必要費ハ其負擔ニ歸ス

占有者カ占有物ノ改良ノ爲メニ費シタル金額其他ノ有益費ニ付テハ其價格ノ增加カ現存スル場合ニ限り回復者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ增價額ヲ償還セシムルコトヲ得但惡意ノ占有者ニ對シテハ裁判所ハ回復者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第一百九十七條 占有者ハ後五條ノ規定ニ從ヒ占有ノ訴ヲ提起スルコトヲ得他人ノ爲メニ占有ヲ爲ス者亦同シ

第一百九十八條 占有者カ其占有ヲ妨害セラレタルトキハ占有保持ノ訴ニ依

リ其妨害ノ停止及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
第一百九十九條 占有者カ其占有ヲ妨害セラルル虞アルトキハ占有保全ノ訴ニ依リ其妨害ノ豫防又ハ損害賠償ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第一二百條 占有者カ其占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回収ノ訴ニ依リ其物ノ返還及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第二百一條 占有保持ノ訴ハ妨害ノ存スル間又ハ其止ミタル後一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但工事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生シタル場合ニ於テ其承繼人カ侵奪ノ事實ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第二百二條 占有保全ノ訴ハ妨害ノ危險ノ存スル間ハ之ヲ提起スルコトヲ得但工事ニ因リ占有物ニ損害ヲ生スル虞アルトキハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

第二百三條 占有ノ回収ノ訴ハ侵奪ノ時ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第二百四條 占有權ハ占有者カ占有有意思ヲ拋棄シ又ハ占有物ノ所持ヲ失フニ因リテ消滅ス但占有者カ占有回収ノ訴ヲ提起シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百五條 代理人カ占有物ノ所持ヲ失ヒタルコト

一 本人カ代理人ヲシテ占有ヲ爲サシムル意思ヲ拋棄シタルコト

二 代理人カ本人ニ對シ爾後自己又ハ第三者ノ爲メニ占有物ヲ所持ス

ヘキ意思ヲ表示シタルコト

三 代理人カ占有物ノ所持ヲ失ヒタルコト

占有權ハ代理權ノ消滅ノミニ因リテ消滅セス

第二百六條 本章ノ規定ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ財產權ノ行使ヲ爲

ス場合ニ之ヲ準用ス

第三章 所有權

第一節 所有權ノ限界
第二百六條 所有者ハ法令ノ制限内ニ於テ自由ニ其所有物ノ使用、收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ有ス

第二百七條 土地ノ所有權ハ法令ノ制限内ニ於テ其土地ノ上下ニ及フ

第二百八條 數人ニテ一棟ノ建物ヲ區分シ各其一部ヲ所有スルトキハ建物及ヒ其附屬物ノ共用部分ハ其共有ニ屬スルモノト推定ス

第二百九條 土地ノ所有者ハ疆界又ハ其近傍ニ於テ牆壁若クハ建物ヲ建造シ又ハ之ヲ修繕スル爲メ必要ナル範圍内ニ於テ隣地ノ使用ヲ請求スルコトヲ得但隣人ノ承諾アルニ非サレハ其住家ニ立入ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ隣人カ損害ヲ受ケタルトキハ其償金ヲ請求スルコトヲ

第一百十條 或土地カ他ノ土地ニ圍繞セラレテ公路ニ通セサルトキハ其土地ノ所有者ハ公路ニ至ル爲メ圍繞地ヲ通行スルコトヲ得

池沼、河渠若クハ海洋ニ由ルニ非サレハ他ニ通スルコト能ハス又ハ崖岸アリテ土地ト公路著シキ高低ヲ爲ストキ亦同シ

第二百十一條 前條ノ場合ニ於テ通行ノ場所及ヒ方法ハ通行權ヲ有スル者ノ爲メニ必要ニシテ且圍繞地ノ爲メニ損害最モ少キモノヲ選フコトヲ要ス

通行權ヲ有スル者ハ必要アルトキハ通行路ヲ開設スルコトヲ得

第二百十二條 通行權ヲ有スル者ハ通行地ノ損害ニ對シテ償金ヲ拂フコトヲ要ス但通路開設ノ爲メニ生シタル損害ニ對スルモノヲ除ク外一年毎ニ其償金ヲ拂フコトヲ得

第二百十三條 分割ニ因リ公路ニ通セサル土地ヲ生シタルトキハ其土地ノ所有者ハ公路ニ至ル爲メ他ノ分割者ノ所有地ノミヲ通行スルコトヲ得此場合ニ於テハ償金ヲ拂フコトヲ要セス

第二百十四條 土地ノ所有者ハ隣地ヨリ水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨クルコトヲ得ス

第二百十五條 水流カ事變ニ因リ低地ニ於テ阻塞シタルトキハ高地ノ所有者ハ自費ヲ以テ其疏通ニ必要ナル工事ヲ爲スコトヲ得

第二百十六條 甲地ニ於テ貯水、排水又ハ引水ノ爲メニ設ケタル工作物ノ破潰又ハ阻塞ニ因リテ乙地ニ損害ヲ及ボシ又ハ及ボス貢アルトキハ乙地ノ所有者ハ甲地ノ所有者ヲシテ修繕若クハ疏通ヲ爲サシメ又必要アルトキハ豫防工事ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十七條 前二條ノ場合ニ於テ費用ノ負擔ニ付キ別段ノ慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百十八條 土地ノ所有者ハ直チニ雨水ヲ隣地ニ注瀉セシムヘキ屋根其他ノ工作物ヲ設クルコトヲ得ス

第二百十九條 溝渠其他ノ水流地ノ所有者ハ對岸ノ土地カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ其水路又ハ幅員ヲ變スルコトヲ得ス

第二百二十條 高地ノ所有者ハ浸水地ヲ乾カス爲メ又ハ家用若クハ農工業用ノ餘水ヲ排泄スル爲メ公路、公流又ハ下水道ニ至ルマテ低地ニ水ヲ通過セシムルコトヲ得但低地ノ爲メニ損害最モ少キ場所及ヒ方法ヲ選フコトヲ要ス

第二百二十一條 土地ノ所有者ハ其所有地ノ水ヲ通過セシムル爲メ高地又ハ低地ノ所有者カ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百二十二条 水流地ノ所有者ハ堰ヲ設クル需要アルトキハ其堰ヲ對岸ニ附著セシムルコトヲ得但之ニ因リテ生シタル損害ニ對シテ償金ヲ拂フ

コトヲ要ス

對岸ノ所有者ハ水流地ノ一部カ其所有ニ屬スルトキハ右ノ堰ヲ使用スルコトヲ得但前條ノ規定ニ從ヒ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

第二百二十三条 土地ノ所有者ハ隣地ノ所有者ト共同ノ費用ヲ以テ疆界ヲ標示スベキ物ヲ設クルコトヲ得

第二百二十四條 界標ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス但測量ノ費用ハ其土地ノ廣狹ニ應シテ之ヲ分擔ス

第二百二十五條 二棟ノ建物カ其所有者ヲ異ニシ且其間ニ空地アルトキハ各所有者ハ他ノ所有者ト共同ノ費用ヲ以テ其疆界ニ圍障ヲ設クルコトヲ得

第二百二十六条 圍障ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔スタルコトヲ要ス

第二百二十七条 相隣者ノ一人ハ第二百二十五條第二項ニ定メタル材料ヨリ良好ナルモノヲ用井又ハ高サヲ増シテ圍障ヲ設クルコトヲ得但之ニ因

リテ生スル費用ノ増額ヲ負擔スルコトヲ要ス

第二百二十八条 前三條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百二十九條 疆界線上ニ設ケタル界標、圍障、牆壁及ヒ溝渠ハ相隣者ノ

共有ニ屬スルモノト推定ス

第二百三十條 一棟ノ建物ノ部分ヲ成ス疆界線上ノ牆壁ニハ前條ノ規定ヲ適用セス

第二百三十一條 相隣者ノ一人ハ共有ノ牆壁ノ高サヲ増スコトヲ得但其牆壁カ此工事ニ耐ヘサルトキハ自費ヲ以テ工作ヲ加ヘ又ハ其牆壁ヲ改築スルコトヲ要ス

第二百三十二条 前條ノ場合ニ於テ牆壁ノ高サヲ増シタル部分ハ其工事ヲ爲シタル者ノ

專有ニ屬スルシテ其枝ヲ剪除セシムルコトヲ得

第二百三十三条 前條ノ場合ニ於テ隣人カ損害ヲ受ケタルトキハ其償金ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十四条 建物ヲ築造スルニハ疆界線ヨリ一尺五寸以上ノ距離ヲ存

在ラス

第二百三十五条 建築ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得但建築著手ノ時ヨリ一年ヲ経過シ又ハ其建築ノ竣工後ハ損害賠償ノ請求ノ権利ヲ有スコトヲ得

第二百三十六条 疆界線ヨリ三尺未満ノ距離ニ於テ他人ノ宅地ヲ觀望スヘキ窓又ハ椽側ヲ設クル者ハ自隣ヲ附スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違ヒテ建築ヲ爲サントスル者アルトキハ隣地ノ所有者ハ其建築ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得但建築著手ノ時ヨリ一年ヲ経過シ又ハ其建築ノ竣工後ハ損害賠償ノ請求ノ権利ヲ有スコトヲ得

第二百三十七条 疆界線ヨリ三尺未満ノ距離ニ於テ他人ノ宅地ヲ觀望スヘキ窓又ハ椽側ヲ設クル者ハ自隣ヲ附スルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ窓又ハ様側ノ最モ隣地ニ近キ點ヨリ直角線ニテ疆界線ニ至

ルマテヲ測算ス

第二百三十六條 前二條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百三十七條 井戸、用水溜、下水溜又ハ肥料溜ヲ穿ツニハ疆界線ヨリ六尺以上池、地窖又ハ廁坑ヲ穿ツニハ三尺以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

水槽ヲ埋メ又ハ溝渠ヲ穿ツニハ疆界線ヨリ其深サノ半以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス但三尺ヲ踰ニルコトヲ要セス

第二百三十八條 疆界線ノ近傍ニ於テ前條ノ工事ヲ爲ストキハ土砂ノ崩壊又ハ水若クハ汚液ノ滲漏ヲ防クニ必要ナル注意ヲ爲スコトヲ要ス

第二百三十九條 所有權ノ取得

第二百三十九條 無主ノ動産ハ所有ノ意思ヲ以テ之ヲ占有スルニ因リテ其所有權ヲ取得ス

無主ノ不動產ハ國庫ノ所有ニ屬ス

第二百四十條 遺失物ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲シタル後一年内ニ其所有者ノ知レサルトキハ拾得者其所有權ヲ取得ス

第二百四十一條 埋藏物ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲シタル後六ヶ月内ニ其所有者ノ知レサルトキハ發見者其所有權ヲ取得ス但他人ノ物ノ中ニ於テ發見シタル埋藏物ハ發見者及ヒ其物ノ所有者折半シテ其所有權ヲ取得ス

第二百四十二條 不動產ノ所有者ハ其不動產ノ從トシテ之ニ附合シタル物ノ所有權ヲ取得ス但權原ニ因リテ其物ヲ附屬セシメタル他人ノ權利ヲ妨ケス

第二百四十三條 各別ノ所有者ニ屬スル數個ノ動產カ附合ニ因リテ毀損スルニ非サレハ之ヲ分離スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其合成功ノ所

有權ハ主タル動產ノ所有者ニ屬ス分離ノ爲メ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第二百四十四條 附合シタル動產ニ付キ主從ノ區別ヲ爲スコト能ハサルトキハ各動產ノ所有者ハ其附合ノ當時ニ於ケル價格ノ割合ニ應シテ合成功

ヲ共にス

第二百四十五條 前二條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル物カ混和シテ識別

スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十六條 他人ノ動產ニ工作ヲ加ヘタル者アルトキハ其加工物ノ所

有權ハ材料ノ所有者ニ屬ス但工作ニ因リテ生シタル價格カ著シク材料ノ價格ニ超ユルトキハ加工者其物ノ所有權ヲ取得ス

加工者カ材料ノ一部ヲ供シタルトキハ其價格ニ工作ニ因リテ生シタル價格ヲ加ヘタルモノカ他人ノ材料ノ價格ニ超ユルトキニ限リ加工者其物ノ所有權ヲ取得ス

第二百四十七條 前五條ノ規定ニ依リテ物ノ所有權カ消滅シタルトキハ其物ノ上ニ存セル他ノ權利モ亦消滅ス

右ノ物ノ所有者カ合成功、混和物又ハ加工物ノ單獨所有者ト爲リタルトキハ前項ノ權利ハ爾後合成功、混和物又ハ加工物ノ上ニ存シ其共有者ト爲リタルトキハ其持分ノ上ニ存ス

第二百四十八條 前六條ノ規定ニ適用ニ因リテ損失ヲ受ケタル者ハ第七百三條及ロ第七百四條ノ規定ニ從ヒ償金ヲ請求スルコトヲ得

第三節 共有者ハ共有物ノ全部ニ付キ其持分ニ應シタル使用ヲ爲スコトヲ得

第二百四十九條 各共有者ノ持分ハ相均シキモノト推定ス

第二百五十條 各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ共有物ニ變更ヲ加フルコトヲ得ス

第二百五十二条 共有物ノ管理ニ關スル事項ハ前條ノ場合ヲ除ク外各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス但保存行爲ハ各共有者ノコトヲ爲スコトヲ得

第二百五十三条 各共有者ハ其持分ニ應シ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他共有物ノ負擔ニ任ス

共有者カ一年内ニ前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ他ノ共有者ハ相當ノ償金ヲ拂ヒテ其者ノ持分ヲ取得スルコトヲ得

第二百五十四条 共有者ノ一人カ其持分ヲ拋棄シタルトキ又ハ相續人ナク債權ハ其特定承繼人ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得

第二百五十五条 共有者ノ一人カ其持分ヲ拋棄シタルトキハ其持分ハ他ノ共有者ニ歸屬ス

第二百五十六条 各共有者ハ何時ニテモ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得但五年ヲ超エサル期間内分割ヲ爲ササル契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

此契約ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百五十七条 前條ノ規定ハ第二百二十九條ニ掲ケタル

第二百五十八条 分割ハ共有者ノ協議調ハサルトキハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第二百五十九條 前項ノ場合ニ於テ現物ヲ以テ分割ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ分割ニ因リテ著シク其價格ヲ損スル虞アルトキハ裁判所ハ其競賣ヲ命スルコトヲ得

第二百六十條 共有物ニ付キ權利ヲ有スル者及ヒ各共有者ノ債權者ハ右ノ辨濟ヲ受クル爲メ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ賣却スル必要アルトキハ其賣却ヲ請求スルコトヲ得

第二百六十一條 共有者ノ一人カ他ノ共有者ニ對シテ共有ニ關スル債權ヲ有スルトキハ分割ニ際シ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ以テ其辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得

債權者ハ右ノ辨濟ヲ受クル爲メ債務者ニ歸スヘキ共有物ノ部分ヲ賣却スル必要アルトキハ其賣却ヲ請求スルコトヲ得

第二百六十二条 共有物ニ付キ權利ヲ有スル者及ヒ各共有者ノ債權者ハ自己ノ費用ヲ以テ分割ニ參加スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ參加ノ請求アリタルニ拘ハラス其參加ヲ待タスシテ分割ヲ爲シタルトキハ其分割ハ之ヲ以テ參加ヲ請求シタル者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百六十三条 分割カ結了シタルトキハ各分割者ハ其受ケタル物ニ關スル證書ヲ保存スルコトヲ要ス

共に者一同又ハ其中ノ數人ニ分割シタル物ニ關スル證書ハ其物ノ最大部分ヲ受ケタル者之ヲ保存スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ最大部分ヲ受ケタル者ナキトキハ分割者ノ協議ヲ以テ證書ノ保存者ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ裁判所之ヲ指定ス

要ス

證書ノ保存者ハ他ノ分割者ノ請求ニ應シテ其證書ヲ使用セシムルコトヲ

外本節ノ規定ヲ適用ス
第二百六十三條 共有ノ性質ヲ有スル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ

第二百六十四條 本節ノ規定ハ數人ニテ所有權以外ノ財產權ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス但法令ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第四章 地上權

第二百六十五條 地上權者ハ他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル

爲メ其土地ヲ使用スル權利ヲ有ス

第二百六十六條 地上權者カ土地ノ所有者ニ定期ノ地代ヲ拂フヘキトキハ

第二百七十四條乃至第二百七十六條ノ規定ヲ準用ス

此他地代ニ付テハ賃貸借ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百六十七條 第二百九條乃至第二百三十八條ノ規定ハ地上權者間又ハ

地上權者ト土地ノ所有者トノ間ニ之ヲ準用ス但第二百二十九條ノ推定ハ

第二百六十八條 設定行爲ヲ以テ地上權ノ存續期間ヲ定メサリシ場合ニ於

テ別段ノ慣習ナキトキハ地上權者ハ何時ニテモ其權利ヲ拋棄スルコトヲ

得但地代ヲ拂フヘキトキハ一年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未タ期限ノ至ラサル

一年分ノ地代ヲ拂フコトヲ要ス

地上權者カ前項ノ規定ニ依リテ其權利ヲ拋棄セサルトキハ裁判所ハ當事

者ノ請求ニ因リ二十年以上五十年以下ノ範圍内ニ於テ工作物又ハ竹木ノ

種類及ヒ狀況其他地上權設定ノ當時ノ事情ヲ斟酌シテ其存續期間ヲ定ム

第二百六十九條 地上權者ハ其權利消滅ノ時土地ヲ原狀ニ復シテ其工作物

及ヒ竹木ヲ收去スルコトヲ得但土地ノ所有者カ時價ヲ提供シテ之ヲ買取

ルヘキ旨ヲ通知シタルトキハ地上權者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコ

トヲ得ス
前項ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第五章 永小作權

第二百七十條 永小作人ハ小作料ヲ拂ヒテ他人ノ土地ニ耕作又ハ牧畜ヲ

爲ス權利ヲ有ス

第二百七十一條 永小作人ハ土地ニ永久ノ損害ヲ生スヘキ變更ヲ加フルコ

トヲ得ス

第二百七十二條 永小作人ハ其權利ヲ他人ニ譲渡シ又ハ其權利ノ存續期間

内ニ於テ耕作若クハ牧畜ノ爲メ土地ヲ賃貸スルコトヲ得但設定行爲ヲ以

テ之ヲ禁シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百七十三條 永小作人ノ義務ニ付テハ本章ノ規定及ヒ設定行爲ヲ以テ

定メタルモノノ外賃貸借ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百七十四條 永小作人ハ不可抗力ニ因リ收益ニ付キ損失ヲ受ケタルト

キト雖モ小作料ノ免除又ハ減額ヲ請求スルコトヲ得ス
第二百七十五條 永小作人カ不可抗力ニ因リ引續キ三年以上全ク收益ヲ得

ス又ハ五年以上小作料ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第二百七十六條 永小作人カ引續キ二年以上小作料ノ支拂フ怠リ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ地主ハ永小作權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十七條 前六條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

第二百七十八條 永小作權ノ存續期間ハ二十年以上五十年以下トス若シ五

十年ヨリ長キ期間ヲ以テ永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ五十年ニ短縮ス

永小作權ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五十年ヲ超ユルコトヲ得ス

設定行爲ヲ以テ永小作權ノ存續期間ヲ定メサリシトキハ其期間ハ別段ノ慣習アル場合ヲ除ク外之ヲ三十年トス

第二百七十九條 第二百六十九條ノ規定ハ永小作權ニ之ヲ準用ス

第六章 地役權

第二百八十條 地役權者ハ設定行爲ヲ以テ定メタル目的ニ從ヒ他人ノ土

地ヲ自己ノ土地ノ便益ニ供スル權利ヲ有ス但第三章第一節中ノ公ノ秩序ニ關スル規定ニ違反セサルコトヲ要ス

第二百八十一條 地役權ハ要役地ノ所有權ノ從トシテ之ト共ニ移轉シ又ハ

要役地ノ上ニ存スル他ノ權利ノ目的タルモノトス但設定行爲ニ別段ノ定

アルトキハ此限ニ在ラス

地役權ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二百八十二條 土地ノ共有者ノ一人ハ其持分ニ付キ其土地ノ爲メニ又ハ

其土地ノ上ニ存スル地役權ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

土地ノ分割又ハ其一部ノ讓渡ノ場合ニ於テハ地役權ハ其各部ノ爲メニ又

ハ其各部ノ上ニ存ス但地役權カ其性質ニ因リ土地ノ一部ノミニ關スルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十三條 地役權ハ繼續且表現ノモノニ限り時效ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第二百八十四條 共有者ノ一人カ時效ニ因リテ地役權ヲ取得シタルトキハ

他ノ共有者モ亦之ヲ取得ス

第二百八十五條 用水地役權ノ承役地ニ於テ水カ要役地及ヒ承役地ノ需要ノ爲メニ不足ナルトキハ其各地ノ需要ニ應シ先づ之ヲ家用ニ供シ其殘餘

ニ非サレハ其效力ヲ生セス

地役權ヲ行使スル共有者數人アル場合ニ於テ其一人ニ對シテ時效停止ノ原因アルモ時效ハ各共有者ノ爲メニ進行ス

第二百八十五條 用水地役權ノ承役地ニ於テ水カ要役地及ヒ承役地ノ需要

ノ爲メニ不足ナルトキハ其各地ノ需要ニ應シ先づ之ヲ家用ニ供シ其殘餘

ヲ他ノ用ニ供スルモノトス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

同一ノ承役地ノ上ニ數個ノ用水地役權ヲ設定シタルトキハ後ノ地役權者

八 前ノ地役權者ノ水ノ使用ヲ妨タルコトヲ得ス
 第二百八十六條 設定行爲又ハ特別契約ニ因リ承役地ノ所有者カ其費用ヲ以テ地役權ノ行使ノ爲メニ工作物ヲ設ケ又ハ其修繕ヲ爲ス義務ヲ負擔シタルトキハ其義務ハ承役地ノ所有者ノ特定承繼人モ亦之ヲ負擔ス
 第二百八十七條 承役地ノ所有者ハ何時ニテモ地役權ニ必要ナル土地ノ部分ノ所有權ヲ地役權者ニ委棄シテ前條ノ負擔ヲ免ルルコトヲ得
 第二百八十八條 承役地ノ所有者ハ地役權ノ行使ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ其行使ノ爲メニ承役地ノ上ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ承役地ノ所有者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス
 第二百八十九條 承役地ノ所有者カ取得時效ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ地役權ハ之ニ因リテ消滅ス

第二百九十九條 前條ノ消滅時效ハ地役權者カ其權利ヲ行使スルニ因リテ中斷ス

第二百九十一條 第百六十七條第二項ニ規定セル消滅時效ノ期間ハ不繼續地役權ニ付テハ最後ノ行使ノ時ヨリ之ヲ起算シ繼續地役權ニ付テハ其行使ヲ妨クヘキ事實ノ生シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二百九十二條 要役地カ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ於テ其一人ノ爲メニ時效ノ中斷又ハ停止アルトキハ其中斷又ハ停止ハ他ノ共有者ノ爲メニモ其效力ヲ生ス

第二百九十三條 地役權者カ其權利ノ一部ヲ行使セサルトキハ其部分ノミニ時效ニ因リテ消滅ス

第二百九十四條 共有ノ性質ヲ有セサル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本章ノ規定ヲ準用ス

第七章 留置權

第二百九十五條 他人ノ物ノ占有者カ其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルトキハ其債權ノ辨濟ヲ受クルマテ其物ヲ留置スルコトヲ得但其債權カ辨濟期ニ在ラストキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二百九十六條 留置權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルマテハ留置物ノ全部ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第二百九十七條 留置權者ハ留置物ヨリ生スル果實ヲ收取シ他ノ債權者ニ前項ノ果實ハ先ツ之ヲ債權ノ利息ニ充當シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第二百九十八條 留置權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ占有スルコトヲ要ス

留置權者ハ債務者ノ承諾ナクシテ留置物ノ使用若クハ貯貸ヲ爲シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得斯但其物ノ保存ニ必要ナル使用ヲ爲スハ此限ニ在ラス

留置權者カ前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ債務者ハ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二百九十九條 留置權者カ留置物ニ付キ必要費ヲ出タシタルトキハ所有者ヲシテ其償還ヲ爲サシムルコトヲ得
 留置權者カ留置物ニ付キ有益費ヲ出タシタルトキハ其價格ノ増加カ現存スル場合ニ限り所有者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得但裁判所ハ所有者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第三百條 留置權ノ行使ハ債權ノ消滅時效ノ進行ヲ妨ケス
 第三百一條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但第二百九十八條第二項ノ規定ニ依リ賃貸又ハ質入ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第八章 先取特權

第一節 總則

第三百三條 先取特權者ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ從ヒ其債務者ノ財產ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四條 先取特權ハ其目的物ノ賣却、貯貸、滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但先取特權者ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

債務者カ先取特權ノ目的物ノ上ニ設定シタル物權ニ對價ニ付キ亦同シ

第三百五條 第二百九十六條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス

第二節 先取特權ノ種類

第一款 一般ノ先取特權

第三百六條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ財產ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 共益ノ費用

二 葬式ノ費用

三 雇人ノ給料

四 日用品ノ供給

第三百七條 共益費用ノ先取特權ハ各債權者ニ共同利益ノ爲メニ爲シタル債務者ノ財產ノ保存、清算又ハ配當ニ關スル費用ニ付キ存在ス

前項ノ費用中總債權者ニ有益ナラサリシモノニ付テハ先取特權ハ其費用ノ爲メ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ存在ス

第三百八條 葬式費用ノ先取特權ハ債務者ノ扶養スヘキ親族又ハ家族ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付キ存在ス

前項ノ先取特權ハ債務者カ其扶養スヘキ親族又ハ家族ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付キ存在ス

第三百九條 屢人給料ノ先取特權ハ債務者ノ雇人カ受クヘキ最後ノ六ヶ月間ノ給料ニ付キ存在ス但其金額ハ五十圓ヲ限トス

第三百十條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其扶養スヘキ同居ノ親族竝ニ家族及ヒ其僕婢ノ生活ニ必要ナル最後ノ六ヶ月間ノ飲食及ヒ薪炭油ノ供給ニ付キ存在ス

第三百十一條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定動產ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 不動產ノ賃貸借

二 旅店ノ宿泊

三 公吏ノ職務上ノ過失

四 動產ノ保存

五 動產ノ賣買

六 動產ノ賣買

七 動產ノ賣買

八 農工業ノ勞役

第三百十二條 不動產賃貸ノ先取特權ハ其不動產ノ借賃其他賃貸借關係ヨリ生シタル賃借人ノ債務ニ付キ賃借人ノ動產ノ上ニ存在ス

第三百十三條 土地ノ賃貸人ノ先取特權ハ賃借地又ハ其利用ノ爲メニスル建物ニ備附ケタル動產、其土地ノ利用ニ供シタル動產及ヒ賃借人ノ占有ニ在ル其土地ノ果實ノ上ニ存在ス

第三百十四條 賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ先取特權ハ讓受人又ハ轉借人ノ動產ニ及フ讓渡人又ハ轉貸人カ受クヘキ金額ニ付キ亦同シ

第三百十五條 賃借人ノ財產ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ先取特權ハ損害ノ賠償ニ付テノミ存在ス

第三百十六條 賃貸人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ於テハ其敷金ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ先取特權ヲ有ス

第三百十七條 旅店宿泊ノ先取特權ハ旅客、其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料並ニ飲食料ニ付キ其旅店ニ存スル手荷物ノ上ニ存在ス

第三百十八條 運輸ノ先取特權ハ旅客又ハ荷物ノ運送費及ヒ附隨ノ費用ニ付キ運送人ノ手ニ存スル荷物ノ上ニ存在ス

第三百十九條 第百九十二條乃至第百九十五條ノ規定ハ前七條ノ先取特權ニ之ヲ準用ス

第三百二十條 公吏保證金ノ先取特權ハ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過失ニ因リテ生シタル債權ニ付キ其保證金ノ上ニ存在ス

第三百二十一條 動產保存ノ先取特權ハ動產ノ保存費ニ付キ其動產ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ動產ニ關スル權利ヲ保存、追認又ハ實行セシムル爲メニ要シタル費用ニ付テモ亦存在ス

第三百二十二條 動產賣買ノ先取特權ハ動產ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其動產ノ上ニ存在ス

第三百二十三條 種苗肥料供給ノ先取特權ハ種苗又ハ肥料ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其種苗又ハ肥料ヲ用ヰタル後一年内ニ之ヲ用ヰタル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ蠶種又ハ蠶ノ飼養ニ供シタル桑葉ノ供給ニ付キ其蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニモ亦存在ス

第三百二十四條 農工業勞役ノ先取特權ハ農業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ一年間工業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ三个月間ノ賃金ニ付キ其勞役ニ因リテ生シタル果實又ハ製作物ノ上ニ存在ス

第三百二十五條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定不動產ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 不動產ノ保存

二 不動產ノ工事

三 不動產ノ賣買

四 不動產ノ賣買

五 不動產ノ賣買

六 不動產ノ賣買

七 不動產ノ賣買

八 不動產ノ賣買

第三百二十六條 不動產保存ノ先取特權ハ不動產ノ保存費ニ付キ其不動產ノ上ニ存在ス

第三百二十一條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十七條 不動產工事ノ先取特權ハ工匠、技師及ヒ請負人カ債務者ノ不動產ニ關シテ爲シタル工事ノ費用ニ付キ其不動產ノ上ニ存在ス

第三百二十八條 不動產賣買ノ先取特權ハ不動產ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其不動產ノ上ニ存在ス

第三節 先取特權ノ順位

第三百二十九條 一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百六條ニ掲ケタル順序ニ從フ

一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツ但共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス

第三百三十條 同一ノ動產ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位左ノ如シ

第一 不動產賃貸、旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權

第二 動產保存ノ先取特權但數人ノ保存者アリタルトキハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツ

第三 動產賣買、種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權

第一順位ノ先取特權者カ債權取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ之ニ對シテ優先權ヲ行フコトヲ得ス第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シ亦同シ

果實ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ勞役者ニ第二ノ順位ハ種苗又ハ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ賃貸人ニ屬ス

第三百三十一條 同一ノ不動產ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ掲ケタル順序ニ從フ

同一ノ不動產ニ付キ逐次ノ賣買アリタルトキハ賣主相互間ノ優先權ノ順位ハ時ノ前後ニ依ル

第三百三十二條 同一ノ目的物ニ付キ同一順位ノ先取特權者數人アルトキ

ハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

第四節 先取特權ノ效力

第三百三十三條 先取特權ハ債務者カ其動產ヲ第三取得者ニ引渡シタル後

第三百三十四條 先取特權ト動產質權ト競合スル場合ニ於テハ動產質權者

ハ其動產ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

ハ第三百三十條 ハ揭ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三百三十五條 一般ノ先取特權者ハ先ツ不動產以外ノ財產ニ付キ辨濟ヲ

受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動產ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス

不動產ニ付テハ先ツ特別擔保ノ目的タルサルモノニ付キ辨濟ヲ受クルコ

トヲ要ス

一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ加入スルコトヲ意リタルトキハ其配當加入ニ因リテ受クヘカリシモノノ限度ニ於テハ登記ヲ爲

シタル第三者ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ不動產以外ノ財產ノ代價ニ先チテ不動產ノ代價ヲ配當シ

又ハ他ノ不動產ノ代價ニ先チテ特別擔保ノ目的タル不動產ノ代價ヲ配當

スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

第三百三十六條 一般ノ先取特權ハ不動產ニ付キ登記ヲ爲ササルモノ之ヲ以

テ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對抗スルコトヲ妨ケス但登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラス

第三百三十七條 不動產保存ノ先取特權ハ保存行為完了ノ後直チニ登記ヲ

爲スニ因リテ其效力ヲ保存ス

第三百三十八條 不動產工事ノ先取特權ハ工事ヲ始ム前ニ其費用ノ豫算額ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス但工事ノ費用カ豫算額ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其超過額ニ付テハ存在セス

工事ニ因リテ生シタル不動產ノ増價額ハ配當加入ノ時裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ要ス

第三百三十九條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記シタル先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

第三百四十條 不動產賣買ノ先取特權ハ賣買契約ト同時ニ未タ代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル旨ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス

第三百四十一條 先取特權ノ效力ニ付テハ本節ニ定メタルモノノ外抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章 質權

第一節 總則

第三百四十二條 質權者ハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取

リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四十三條 質權ハ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ス

第三百四十四條 質權ノ設定ハ債權者ニ其目的物ノ引渡ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百四十五條 質權者ハ質權設定者ヲシテ自己ニ代ハリテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第三百四十六條 質權ハ元本、利息、違約金、質權實行ノ費用、質物保存ノ費用及ヒ債務ノ履行又ハ質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ擔保ス但設定行為ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十七條 質權者ハ前條ニ掲ケタル債權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得但此權利ハ之ヲ以テ自己ニ對シ優先權ヲ有スル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百四十八條 質權者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉質ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉質ヲ爲ササレハ生セサルヘキ不可抗力ニ因ル損失ニ付テモ亦其責ニ任ス

第三百四十九條 質權設定者ハ設定行為又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ質權者ニ辨濟トシテ質物ノ所有權ヲ取得セシメ其他法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ得ス

第三百五十條 第二百九十六條乃至第三百條及ヒ第三百四條ノ規定ハ質權ニ之ヲ準用ス

第三百五十一條 他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタル者カ其債務ヲ辨濟シ又ハ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ保證債務ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第二節 動產質

第三百五十二条 動產質權者ハ繼續シテ質物ヲ占有スルニ非サレハ其質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十三条 動產質權者カ質物ノ占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回収ノ訴ニ依リテノミ其質物ヲ回復スルコトヲ得

第三百五十四条 動產質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限り鑑定人ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ質權者ハ豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百五十五条 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ動產ニ付キ質權ヲ設定シタルトキハ其質權ノ順位ハ設定ノ前後ニ依ル

第三節 不動產質

第三百五十六条 不動產質權者ハ質權ノ目的タル不動產ノ用方ニ從ヒ其使用及ヒ収益ヲ爲スコトヲ得

第三百五十七条 不動產質權者ハ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他不動產ノ負擔ニ任ス

第三百五十八条 不動產質權者ハ其債權ノ利息ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百五十九條 前三條ノ規定ハ設定行為ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

第三百六十條 不動產質ノ存續期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ不動產質ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ十年ニ短縮ス

不動產質ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三百六十一條 不動產質ニハ本節ノ規定ノ外次章ノ規定ヲ準用ス

第三百六十二条 第四節 權利質

質權ハ財產權ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ス

前項ノ質權ニハ本節ノ規定ノ外前三節ノ規定ヲ準用ス
第三百六十三條 債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニ於テ其債權ノ證書ア
ルトキハ質權ノ設定ハ其證書ノ交付ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百六十四條 指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ第四百六十
七條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ記名ノ株式ニハ之ヲ適用セス
第三百六十五條 記名ノ社債ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ社債ノ讓渡ニ關スル規定ニ從ヒ會社ノ帳簿ニ質權ノ設定ヲ記入スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十六條 指圖債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ其證書ニ質權ノ設定ヲ裏書スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十七條 質權者ハ質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得
債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ質權者ハ自己ノ債權額ニ對スル部分ニ限
リ之ヲ取立ツルコトヲ得

右ノ債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來シタルトキハ質權者ハ第三債務者ヲシテ其辨濟金額ヲ供託セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ質權ハ其供託金ノ上ニ存在ス

第三百六十八條 質權者ハ前條ノ規定ニ依ル外民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ依リテ質權ノ實行ヲ爲スコトヲ得
第十章 抵當權

第一節 總則
第三百六十九條 抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サシテ債務ノ擔保ニ供シタル不動產ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス
地上權及ヒ永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本章ノ規定ヲ準用ス
第三百七十條 抵當權ハ抵當地ノ上ニ存スル建物ヲ除ク外其目的タル不動產ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ニ及フ但設定行為ニ別段ノ定アルトキ及ヒ第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行為ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此限ニ在ラス

第三百七十一條 前條ノ規定ハ果實ニハ之ヲ適用セス但抵當不動產ノ差押アリタル後又ハ第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其後一年内ニ抵當不動產ノ差押アリタル場合ニ限り前項但書ノ規定ヲ適用ス
第三百七十二條 第二百九十六條、第三百四條及ヒ第三百五十一條ノ規定ニ在ラス
第三百七十二條 第二百九十六條、第三百四條及ヒ第三百五十一條ノ規定ハ抵當權ニ之ヲ準用ス
第二節 抵當權ノ效力

第三百七十三條 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ不動產ニ付キ抵當權ヲ設定シタルトキハ其抵當權ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ル

第三百七十四條 抵當權者カ利息其他ノ定期金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其満期ト爲リタル最後ノ二年分ニ付テノミ其抵當權ヲ行フコトヲ得但其以前ノ定期金ニ付テモ満期後特別ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ノ時ヨリ之ヲ行フコトヲ妨ケス

第三百七十五條 抵當權者ハ其抵當權ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲シ又同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其抵當權若クハ其順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ抵當權者カ數人ノ爲メニ其抵當權ノ處分ヲ爲シタルトキハ其處分ノ利益ヲ受クル者ノ權利ノ順位ハ抵當權ノ登記ニ附記ヲ爲シタル前後ニ依ル

第三百七十六條 前條ノ場合ニ於テハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ抵當權ノ處分ヲ通知シ又ハ其債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ其債務者、保證人、抵當權設定者及ヒ其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百七十七條 主タル債務者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ爲シタルトキハ抵當權ノ處分ノ利益ヲ受クル者ノ承諾ナクシテ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ其受益者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百七十八條 抵當不動產ニ付キ所有權又ハ地上權ヲ買受ケタル第三者カ抵當權者ノ請求ニ應シテ之ニ其代價ヲ辨濟シタルトキハ抵當權ハ其第三者ノ爲メニ消滅ス

第三百七十九條 主タル債務者、保證人及ヒ其承繼人ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十條 停止條件附第三取得者ハ條件ノ成否未定ノ間ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十一條 抵當權者カ其抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ豫メ第三百七十八條ニ掲ケタル第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百八十二條 第三取得者ハ前條ノ通知ヲ受クルマテハ何時ニテモ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得

第三取得者カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ一个月内ニ次條ノ送達ヲ爲スニ非サレハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

前條ノ通知アリタル後ニ第三百七十八條ニ掲ケタル權利ヲ取得シタル第三者ハ前項ノ第三取得者カ滌除ヲ爲スコトヲ得ル期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十三條 第三取得者カ抵當權ヲ滌除セント欲スルトキハ登記ヲ爲シタル各債權者ニ左ノ書面ヲ送達スルコトヲ要ス

一 取得ノ原因、年月日、讓渡人及ヒ取得者ノ氏名、住所、抵當不動產ノ

性質、所在、代價其他取得者ノ負擔ヲ記載シタル書面

二 抵當不動產ニ關スル登記簿ノ謄本但既ニ消滅シタル權利ニ關スル

登記ハ之ヲ掲タルコトヲ要セス

三 債權者カ一个月内ニ次條ノ規定ニ從ヒ増價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ハ第一號ニ掲ケタル代價又ハ特ニ指定シタル金額ヲ

債權ノ順位ニ從ヒテ辨濟又ハ供託スヘキ旨ヲ記載シタル書面

三百八十四條 債權者カ前條ノ送達ヲ受ケタル後一个月内ニ増價競賣ヲ

請求セサルトキハ第三取得者ノ提供ヲ承諾シタルモノト看做ス

増價競賣ハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動產ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ十分ノ一ノ増價ヲ以テ自ラ其不動產ヲ買受クヘキ旨ヲ附言シ第三取得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ債權者ハ代價及ヒ費用ニ付キ擔保ヲ供スルコトヲ要

三百八十五條 債權者カ増價競賣ヲ請求スルトキハ前條ノ期間内ニ債務者及ヒ抵當不動產ノ譲渡人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

三百八十六條 増價競賣ヲ請求シタル債權者ハ登記ヲ爲シタル他ノ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其請求ヲ取消スルコトヲ得ス

三百八十七條 抵當權者カ第三百八十二條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ヨリ債務ノ辨濟又ハ滌除ノ通知ヲ受ケサルトキハ抵當不動產ノ競賣ヲ

請求スルコトヲ得

三百八十八條 土地及ヒ其上ニ存スル建物カ同一ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其土地又ハ建物ノミヲ抵當ト爲シタルトキハ抵當權設定者ハ競賣ヲ

ノ場合ニ付キ地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但地代ハ當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定ム

三百八十九條 抵當權設定ノ後其設定者カ抵當地ニ建物ヲ築造シタルトキハ抵當權者ハ土地ト共ニ之ヲ競賣スルコトヲ得但其優先權ハ土地ノ代價ニ付テノミ之ヲ行フコトヲ得

三百九十條 第三取得者ハ競買人ト爲ルコトヲ得

三百九十一條 第三取得者カ抵當不動產ニ付キ必要費又ハ有益費ヲ出タ

シタルトキハ第百九十六條ノ區別ニ從ヒ不動產ノ代價ヲ以テ最モ先ニ其價還ヲ受クルコトヲ得

三百九十二條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保シテ數個ノ不動產ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其代價ヲ配當スヘキトキハ其各不動產ノ

價額ニ準シテ其債權ノ負擔ヲ分ツ

三百九十三條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當

權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得

三百九十四條 抵當權者ハ抵當不動產ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權

三百九十三條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當

權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得

三百九十四條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當

權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得

三百九十五條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當

權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得

三百九十六條 第三百九十五條第一項ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當

權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得

三百九十七條 第三百九十六條第一項ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當

權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得

ノ部分ニ付テノミ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ抵當不動產ノ代價ニ先チテ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但他ノ各債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ

辨濟ヲ受ケシムル爲メ之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

三百九十五條 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル貸貸借ハ抵當權ノ

登記後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得但其貸貸借カ抵當權者ニ損害ヲ及ホストキハ裁判所ハ抵當權者ノ請求ニ因リ其解除ヲ命スルコトヲ得

三百九十六條 抵當權ハ債務者及ヒ抵當權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非サレハ時效ニ因リテ消滅セス

三百九十七條 債務者又ハ抵當權設定者ニ非サル者カ抵當不動產ニ付キ

三百九十八條 地上權又ハ永小作權ヲ抵當ト爲シタル者カ其權利ヲ拋棄シタルモ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス

三百九十九條 債權ハ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的ト爲スルコトヲ得

四百條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲ス

マテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

四百一條 債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタル場合ニ於テ法律行為ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リテ其品質ヲ定ムルコト能ハサルトキハ債務者ハ中等ノ品質ヲ有スル物ヲ給付スルコトヲ要ス

四百二條 債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スルコトヲ得但特種ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタルトキハ此限ニ在ラス

債權ノ目的タル特種ノ通貨カ辨濟期ニ於テ強制通用ノ效力ヲ失ヒタルトキハ債務者ハ他ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スルコトヲ要ス

四百三條 外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ履行地ニ於ケル爲替相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スルコトヲ得

四百四條 利息ヲ生スヘキ債權ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其利率ハ年五分トス

四百五條 利息カ一年分以上延滞シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ拂ハサルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ組入ルルコトヲ得

四百六條 債權ノ目的カ數個ノ給付中選擇ニ依リテ定マルヘキトキハ其

第四百七條 前條ノ選擇權ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ行フ
前項ノ意思表示ハ相手方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第四百八條 債權力辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メ
ハ其選擇權ハ相手方ニ屬ス

第四百九條 第三者カ選擇ヲ爲スハ當事者カ其期間内ニ選擇ヲ爲ササルトキ
務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス
第二者カ選擇ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ欲セサルトキハ選擇權ハ債務者

第四百十條 債權ノ目的タルヘキ給付中始ヨリ不能ナルモノ又ハ後ニ至リ
テ不能ト爲リタルモノアルトキハ債權ハ其殘存スルモノニ付キ存在ス
選擇權ヲ有セサル當事者ノ過失ニ因リテ給付カ不能ト爲リタルトキハ前

第四百十一條 選擇ハ債權發生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者ノ權利
ヲ害スルコトヲ得ス

第二節 債權ノ效力

第四百十二條 債務ノ履行ニ付キ確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到
來シタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス

第四百十三條 債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコ
トヲ知リタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス

第四百十四條 債務者カ任意ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其強
制履行ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ
此限ニ在ラス

債務ノ性質カ強制履行ヲ許ササル場合ニ於テ其債務カ作爲ヲ目的トスル
トキハ債權者ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ裁判

所ニ請求スルコトヲ得但法律行為ヲ目的トスル債務ニ付テハ裁判ヲ以テ
債務者ノ意思表示ニ代フルコトヲ得

不作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタルモノヲ
除却シ且將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前三項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
第四百十五條 債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキハ債
權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因
リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

第四百十六條 損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生スヘキ損害
ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ其目的トス

特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫
見スルコトヲ得ヘカリシトキハ債權者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第四百十七條 損害賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金錢ヲ以テ其額ヲ定
ム

第四百十八條 債務ノ不履行ニ關シ債權者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ
損害賠償ノ責任及ヒ其金額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

第四百十九條 金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ
法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利
率ニ依ル

前項ノ損害賠償ニ付テハ債權者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務
者ハ不可抗力ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得ス

第四百二十條 當事者ハ債務ノ不履行ニ付キ損害賠償ノ額ヲ豫定スルコト
ヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ増減スルコトヲ得ス

第四百二十一條 前條ノ規定ハ當事者カ金錢ニ非サルモノヲ以テ損害ノ賠
償ニ充ツヘキ旨ヲ豫定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十二條 債權者カ損害賠償トシテ其債權ノ目的タル物又ハ權利ノ
價額ノ全部ヲ受ケタルトキハ債務者ハ其物又ハ權利ニ付キ當然債權者ニ
代位ス

第四百二十三條 債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權
利ヲ行フコトヲ得但債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此限ニ在ラス

第四百二十四條 債權者ハ其債權ノ期限カ到來セサル間ハ裁判上ノ代位ニ依ルニ非サレハ
前項ノ權利ヲ行フコトヲ得ス但保存行為ハ此限ニ在ラス

第四百二十六條 債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル
法律行為ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其行為ニ因リテ利益ヲ
受ケタル者又ハ轉得者カ其行為又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ
知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第四百二十五條 前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ總債權者ノ利益ノ爲
メニ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ財產權ヲ目的トセサル法律行為ニハ之ヲ適用セス

第四百二十七條 第四百二十四條ノ取消權ハ債權者カ取消ノ原因ヲ覺知シ
タル時ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ时效ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ
二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總則

第四百二十八條 債權ノ目的カ其性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ不
可分ナル場合ニ於テ數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示
ナキトキハ各債權者又ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ又ハ義
務ヲ負フ

第二款 不可分債務

第四百二十九條 數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示
ナキトキハ各債權者又ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ又ハ義
務ヲ負フ

第四百二十九條 不可分債權者ノ一人ト其債務者トノ間ニ更改又ハ免除アリタル場合ニ於テモ他ノ債權者ハ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得但其一人ノ債權者カ其權利ヲ失ハサレハ之ニ分與スヘキ利益ヲ債務者ニ償還スルコトヲ要ス

此他不可分債權者ノ一人ノ行為又ハ其一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債權者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百三十條 數人カ不可分債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定及ヒ連帶債務ニ關スル規定ヲ準用ス但第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第四百三十一條 不可分債務カ可分債務ニ變シタルトキハ各債權者ハ自己ノ部分ニ付テノミ履行ヲ請求スルコトヲ得又各債務者ハ其負擔部分ニ付テノミ履行ノ責ニ任ス

第三款 連帶債務

第四百三十二條 數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百三十三條 連帶債務者ノ一人ニ付キ法律行為ノ無效又ハ取消ノ原因ノ存スル爲メ他ノ債務者ノ債務ノ效力ヲ妨クルコトナシ

第四百三十四條 連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第四百三十五條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ更改アリタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

第四百三十六條 連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テ其債務者カ相殺ヲ援用シタルトキハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

右ノ債權ヲ有スル債務者カ相殺ヲ援用セサル間ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ニ於テ相殺ヲ援用スルコトヲ得

第四百三十七條 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ノ利益ノ爲メニモ其效力ヲ生ス

第四百三十八條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ混同アリタルトキハ其債務者ハ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百三十九條 連帶債務者ノ一人ノ爲メニ時效カ完成シタルトキハ其債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債務者モ亦其義務ヲ免ル

第四百四十條 前六條ニ掲ケタル事項ヲ除ク外連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債務者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百四十一條 連帶債務者ノ全員又ハ其中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

第四百四十二條 連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルトキハ他ノ債務者ニ對シ其各自ノ負擔部分ニ付キ求

償權ヲ有ス
前項ノ未償ハ辨濟其他免責アリタル日以後ノ法定利息及ヒ避クルコトヲ得サリシ費用其他ノ損害ノ賠償ヲ包含ス

第四百四十三條 連帶債務者ノ一人カ債權者ヨリ請求ヲ受ケタルコトヲ他ノ債務者ニ通知セスシテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者カ債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ有セシトキハ其負擔部分ニ付キ之ヲ以テ其債務者ニ對抗スルコトヲ得但相殺ヲ以テ之ニ對抗シタルトキハ過失アル債務者ハ債權者ニ對シ相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

連帶債務者ノ一人カ辨濟其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルコトヲ他ノ債務者ニ通知スルコトヲ怠リタルニ因リ他ノ債務者カ善意ニテ債權者ニ辨濟ヲ爲シ其他有償ニ免責ヲ得タルトキハ其債務者ハ自己ノ辨濟セシトキハ其負擔部分ニ付キ之ヲ以テ其債務者ニ對抗スルコトヲ得

第四百四十四條 連帶債務者中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者ノ間ニ其各自ノ負擔部分ニ應シテ之ヲ分割ス但求償者ニ過失アルトキハ他ノ債務者ニ對シテ

第四百四十五條 連帶債務者ノ一人カ連帶ノ免除ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者中ニ辨濟ノ資力ナキ者アルトキハ債權者ハ其無資力者カ辨濟スルコト能ハサル部分ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル者カ負擔スヘキ部分ヲ負擔ス

第四百四十六條 保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責ニ任ス

第四百四十七條 保證債務ハ主タル債務ニ關スル利息、違約金、損害賠償其他總テ其債務ニ從タルモノヲ包含ス

第四百四十八條 保證人ノ負擔カ債務ノ目的又ハ體様ニ付キ主タル債務ヨリ重キトキハ之ヲ主タル債務ノ限度ニ減縮ス

第四百四十九條 無能力ニ因リテ取消スルコトヲ得ヘキ債務ヲ保證シタル者カ保證契約ノ當時其取消ノ原因ヲ知リタルトキハ主タル債務者ノ不履行又ハ其債務ノ取消ノ場合ニ付キ同一ノ目的ヲ有スル獨立ノ債務ヲ負擔シタルモノト推定ス

第四款 保證債務

第四百五十條 債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ニ於テハ其保證人ハ左ノ條件ヲ具備スル者タルコトヲ要ス

第一能力者タルコト
二 辨濟ノ資力ヲ有スルコト
三 債務ノ履行地ヲ管轄スル控訴院ノ管轄内ニ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定メタルコト
保證人カ前項第二號又ハ第三號ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキハ債權者ハ前項ノ條件ヲ具備スル者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ請求スルコトヲ得
第四百五十一條 債務者カ保證人ヲ指名シタル場合ニハ之ヲ適用セス
サルトキハ他ノ擔保ヲ供シテ之ニ代フルコトヲ得

第四百五十二條 債務者カ保證人ニ債務ノ履行ヲ請求シタルトキハ保證人ハ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得但主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其行方カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十三條 債權者カ前條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ催告ヲ爲シタル後ト雖モ保證人カ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリテ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ債權者ハ先ツ主タル債務者ノ財產ニ付キ執行ヲ爲スコトヲ要ス

第四百五十四條 保證人カ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタルトキハ前二條ニ定メタル權利ヲ有セス

第四百五十五條 第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定ニ依リ保證人ニ請求アリタルニ拘ハラス債務者カ催告又ハ執行ヲ爲スコトヲ怠リ其後主タル債務者ヨリ全部ノ辨濟ヲ得サルトキハ保證人ハ債權者カ直チニ催告又ハ執行ヲ爲セハ辨濟ヲ得ヘカリシ限度ニ於テ其義務ヲ免ル

第四百五十六條 數人ノ保證人アル場合ニ於テハ其保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ第四百二十七條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十七條 主タル債務者ニ對スル履行ノ請求其他時效ノ中斷ハ保證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス

保證人ハ主タル債務者ノ債權ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第四百五十八條 主タル債務者カ保證人ト連帶シテ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ヲ適用ス

第四百五十九條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ過失ナクシテ債權者ニ辨濟スベキ裁判言渡ヲ受ケ又ハ主タル債務者ニ代ハリテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務ヲ消滅セシムベキ行爲ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第四百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百六十條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタルトキハ其保證人ハ左ノ場合ニ於テ主タル債務者ニ對シテ豫メ求償權ヲ行フコトヲ得

一 主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ且債權者カ其財團ノ配當ニ加入セサルトキ

二 債務カ辨濟期ニ在ルトキ但保證契約ノ後債權者カ主タル債務者ニ許與シタル期限ハ之ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ス

三 債務ノ辨濟期カ不確定ニシテ且其最長期ヲモ確定スルコト能ハサル場合ニ於テ保證契約ノ後十年ヲ經過シタルトキ

第四百六十一條 前二條ノ規定ニ依リ主タル債務者カ保證人ニ對シテ賠償ヲ爲ス場合ニ於テ債權者カ全部ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ主タル債務者ハ保證人ヲシテ擔保ヲ供セシメ又ハ之ニ對シテ自己ニ免責ヲ得セシムベキ旨ヲ請求スルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ主タル債務者ハ供託ヲ爲シ、擔保ヲ供シ又ハ保證人ニ免責ヲ得セシメテ其賠償ノ義務ヲ免ルコトヲ得

第四百六十二條 主タル債務者ノ委託ヲ受ケスシテ保證ヲ爲シタル者カ債

務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ主タル債務者ニ其債務ヲ免レシメタルトキハ主タル債務者ハ其當時利益ヲ受ケタル限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

主タル債務者ノ意思ニ反シテ保證ヲ爲シタル者ハ主タル債務者カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ求償權ヲ有ス但主タル債務者カ求償ノ日以前ニ相殺ノ原因ヲ有セシコトヲ主張スルトキハ保證人ハ債權者ニ對シ其相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百六十三條 第四百四十三條ノ規定ハ保證人ニ之ヲ準用ス

保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ善意ニテ辨濟其他免責ノ爲メニスル出捐ヲ爲シタルトキハ第四百四十三條ノ規定ハ主タル債務者ニモ亦之ヲ準用ス

第四百六十四條 連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ對シテ其負擔部分ノミニ付キ求償權ヲ有ス

第四百六十五條 數人ノ保證人アル場合ニ於テ主タル債務カ不可分ナル爲メ又ハ各保證人カ全額ヲ辨濟スベキ特約アル爲メ一人ノ保證人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ非スシテ互ニ連帶セサル保證人ノ一人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四百六十二條ノ規定ヲ準用ス

第四節 債權ノ讓渡

第四百六十六條 債權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第四百六十七條 指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十八條 債務者カ異議ヲ留メシテ前條ノ承諾ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由アルモ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス但債務者カ其債務ヲ消滅セシムル爲メ讓渡人ニ拂渡シタルモノアルトキハ之ヲ取返シ又讓渡人ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ之ヲ成立セサルモノト看做スコトヲ妨ケス

讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止マルトキハ債務者ハ其通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十九條 指圖債權ノ讓渡ハ其證書ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓受人ニ交付スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ノ所持人及ヒ其署名捺印ノ真偽ヲ調査スル權利ヲ有スルモ其義務ヲ負フコトナシ但債務者ニ惡意又ハ重大ナル過失アルトキハ其辨濟ハ無效トス

第四百七十一條 前條ノ規定ハ證書ニ債權者ヲ指名シタルモ其證書ノ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十二條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ニ記載シタル事項及ヒ其證書ノ性質ヨリ當然生スル結果ヲ除ク外原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリ

シ事由ヲ以テ善意ノ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十三條 前條ノ規定ハ無記名債權ニ之ヲ準用ス

第五節 債權ノ消滅

第一款 辨濟

第四百七十四條 債務ノ辨濟ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得但其債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキ又ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在

ラス

利害ノ關係ヲ有セサル第三者ハ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十五條 辨濟者カ他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十六條 譲渡ノ能力ナキ所有者カ辨濟トシテ物ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テ其辨濟ヲ取消シタルトキハ其所有者ハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十七條 前二條ノ場合ニ於テ債務者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費シ又ハ譲渡シタルトキハ其辨濟ハ有效トス但債務者カ第三者ヨリ賠償ノ請求ヲ受ケタルトキハ辨濟者ニ對シテ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四百七十八條 債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟者ノ善意ナリシトキニ限リ其效力ヲ有ス

第四百七十九條 前條ノ場合ヲ除ク外辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ハ債權者カ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第四百八十條 受取證書ノ持參人ハ辨濟受領ノ權限アルモノト看做ス但有ス

第四百八十一條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ヲ

辨濟者カ其權限ナキコトヲ知リタルトキ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第四百八十二条 債務者カ債權者ノ承諾ヲ以テ其負擔シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲シタルトキハ其給付ハ辨濟ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ第三債務者ニ請求スルコトヲ得

第四百八十三条 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ辨濟者ハ其引渡ヲ爲スヘキ時ノ現状ニテ其物ヲ引渡スコトヲ要ス

第四百八十四条 辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ特定物ノ引渡ハ債權發生ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ

辨濟ハ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百八十五条 辨濟ノ費用ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其費用ハ債

務者之ヲ負擔ス但債權者カ住所ノ移轉其他ノ行爲ニ因リテ辨濟ノ費用ヲ増加シタルトキハ其増加額ハ債權者之ヲ負擔スルトキハ其證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十六条 辨濟者ハ辨濟受領者ニ對シテ受取證書ノ交付ヲ請求スル

第四百八十七条 債權ノ證書アル場合ニ於テ辨濟者カ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ其證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十八条 債務者カ同一ノ債權者ニ對シテ同種ノ目的ヲ有スル數個ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ辨濟トシテ提供シタル給付カ總債務ヲ消滅セシムルニ足ラサルトキハ辨濟者ハ給付ノ時ニ於テ其辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ指定スルコトヲ得

辨濟者カ前項ノ指定ヲ爲ササルトキハ辨濟受領者ハ其受領ノ時ニ於テ其辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但辨濟者カ其充當ニ對シテ直チニ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

前二項ノ場合ニ於テ辨濟ノ充當ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第四百八十九條 當事者カ辨濟ノ充當ヲ爲ササルトキハ左ノ規定ニ從ヒ其辨濟ヲ充當ス

一 總債務中辨濟期ニ在ルモノト辨濟期ニ在ラサルモノノトアルトキハ辨濟期ニ在ルモノヲ先ニス

二 總債務カ辨濟期ニ在ルトキ又ハ辨濟期ニ在ラサルトキハ債務者ノ

三 爲メニ辨濟ノ利益多キモノヲ先ニス

四 前二號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ債務ノ辨濟ハ各債務ノ額ニ

一 總債務中辨濟期ニ在ルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ先ニス

二 總債務カ辨濟期ニ在ルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ先ニス

三 爲メニ辨濟ノ利益相同意キトキハ辨濟期ノ先ツ至リタル

四 前二號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ債務ノ辨濟ハ各債務ノ額ニ

一 總債務中辨濟期ニ在ルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ先ニス

二 總債務カ辨濟期ニ在ルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ先ニス

第四百九十五條 供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
供託所ニ付キ法令ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ
因リ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス
供託者ハ遲滯ナク債權者ニ供託ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第四百九十六條 債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判
決カ確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得此場合ニ於テハ供
託ヲ爲ササリシモノト看做ス
前項ノ規定ハ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタル場合ニハ之ヲ適
用セス

第四百九十七條

辨濟ノ目的物カ供託ニ適セス又ハ其物ニ付キ滅失若クハ
毀損ノ虞アルトキハ辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供
託スルコトヲ得其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第四百九十八條 債務者カ債權者ノ給付ニ對シテ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於
テハ債權者ハ其給付ヲ爲スニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

第四百九十九條 債務者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタル者ハ其辨濟ト同時ニ債權
者ノ承諾ヲ得テ之ニ代位スルコトヲ得

第四百六十七條 ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五百條 辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然
債權者ニ代位ス

第五百一條 前二條ノ規定ニ依リテ債權者ニ代位シタル者ハ自己ノ權利ニ
基キ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍内ニ於テ債權ノ效力及ヒ擔保トシテ其
債權者カ有セシ一切ノ權利ヲ行フコトヲ得但左ノ規定ニ從フコトヲ要ス

二 一 保證人ハ豫メ先取特權、不動產質權又ハ抵當權ノ登記ニ其代位ヲ
附記シタルニ非サレハ其先取特權、不動產質權又ハ抵當權ノ目的タ
ル不動產ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

三 第三取得者ノ一人ハ各不動產ノ價格ニ應スルニ非サレハ他ノ第三
取得者ニ對シテ債權者ニ代位セス

四 前號ノ規定ハ自己ノ財產ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者ノ
間ニ之ヲ準用ス

五 保證人ト自己ノ財產ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トノ間
ニ於テハ其頭數ニ應スルニ非サレハ債權者ニ代位セス但自己ノ財產
ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者數人アルトキハ保證人ノ負擔
タル價額ニ應シテ債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ其財產カ不動產ナルトキハ第一號ノ規定ヲ準用ス
五百二條 債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタルトキハ代位者ハ其辨濟シ
タル價額ニ應シテ債權者ト共ニ其權利ヲ行フ
前項ノ場合ニ於テ債務ノ不履行ニ因ル契約ノ解除ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以
スルコトヲ得但代位者ニ其辨濟シタル價額及ヒ其利息ヲ償還スルコトヲ
要ス

第五百三條 代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ニ關ス
ル證書及ヒ其占有ニ在ル擔保物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス
債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタル場合ニ於テハ債權者ハ債權證書ニ其
代位ヲ記入シ且代位者ヲシテ其占有ニ在ル擔保物ノ保存ヲ監督セシムル
コトヲ要ス

第五百四條 第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲ爲スヘキ者アル場合ニ於テ債
權者カ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シタルトキハ代位ヲ
爲スヘキ者ハ其喪失又ハ減少ニ因リ償還ヲ受タルコト能ハサルニ至リタ
ル限度ニ於テ其責ヲ免ル

第五百五條 第五百條
二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ雙方
ノ債務カ辨濟期ニ在ルトキハ各債務者ハ其對當額ニ付キ相殺ニ因リテ其
債務ヲ免ルルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラ
ス

第五百六條 相殺ハ當事者ノ一方ヨリ其相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ
之ヲ爲ス但其意思表示ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニハ之ヲ適用セス但
其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百七條 相殺ハ雙方ノ債務ノ履行地カ異ナルトキト雖モ之ヲ爲スコト
ヲ得但相殺ヲ爲ス當事者ハ其相手方ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠
償スルコトヲ要ス

第五百八條 時效ニ因リテ消滅シタル債權カ其消滅以前ニ相殺ニ適シタル
場合ニ於テハ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得

第五百九條 債務カ不法行為ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ得ス
テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十條 債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ
債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十一條 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者ハ其後ニ取得シタル債權
ニ依リ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十二條 債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ
債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百三條 第三款 更改

第五百十三條 當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債
務ハ更改ニ因リテ消滅ス
條件附債務ヲ無條件債務トシ、無條件債務ニ條件ヲ附シ又ハ條件ヲ變更
スルハ債務ノ要素ヲ變更スルモノト看做ス債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形
ヲ發行スル亦同シ
第五百十四條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以
テ之ヲ爲スコトヲ得但舊債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス
五百十五條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ

非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十六條 第四百六十八條第一項ノ規定ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ニ

之ヲ準用ス

第五百十七條 更改ニ因リテ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セス

第五百十八條 更改ノ當事者ハ舊債務ノ目的ノ限度ニ於テ其債務ノ擔保ニ供シタル質權又ハ抵當權ヲ新債務ニ移スコトヲ得但第三者カ之ヲ供シタル場合ニ於テハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第四款 免除

第五百十九條 債權者カ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其債權ハ消滅ス

第五百二十條 債權及ヒ債務カ同一人ニ歸シタルトキハ其債權ハ消滅ス

但其債權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス

第二章 契約

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

第五百二十一條 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

申込者カ前項ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第五百二十二條 承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間内ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知リ得ヘキトキハ申込者ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但其到達前三遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

申込者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ承諾ノ通知ハ延著セサリシモノト看做ス

第五百二十三條 遲延シタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做ス

コトヲ得ス

第五百二十四條 承諾ノ期間ヲ定メシテ隔地者ニ爲シタル申込ハ申込者

カ承諾ノ通知ヲ受クルニ相當ナル期間之ヲ取消スコトヲ得ス

五百二十五條 第九十七條第二項ノ規定ハ申込者カ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其相手方カ死亡若クハ能力喪失ノ事實ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百二十六條 隔地者間ノ契約ハ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ成立ス

申込者ノ意思表示又ハ取引上ノ慣習ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場

合ニ於テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アリタル時ニ成立ス

五百二十七條 申込ノ取消ノ通知カ承諾ノ通知ヲ發シタル後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其前ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナル

コトヲ知リ得ヘキトキハ承諾者ハ遲滞ナク申込者ニ對シテ其延著ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

承諾者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ契約ハ成立セサリシモノト看做ス

第五百二十八條 承諾者カ申込ニ條件ヲ附シ其他變更ヲ加ヘテ之ヲ承諾タルトキハ其申込ノ拒絕ト共ニ新ナル申込ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百二十九條 或行爲ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フヘキ旨ヲ廣告シタル者ハ其行爲ヲ爲シタル者ニ對シテ其報酬ヲ與フル義務ヲ負フ

前項ニ定メタル方法ニ依リテ取消ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ他ノ廣告中ニ取消ヲ爲サル旨ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

廣告中ニ取消ヲ爲サル旨ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

方法ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但其取消ハ之ヲ知リタル者ニ對シテノミ其效力ヲ有ス

廣告者カ其指定シタル行爲ヲ爲スヘキ期間ヲ定メタルトキハ其取消權ヲ拠棄シタルモノト推定ス

第五百三十條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アルトキハ最初ニ其行爲ヲ爲シタル者ノミ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス

數人カ同時ニ右ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ各平等ノ割合ヲ以テ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス但報酬カ其性質上分割ニ不便ナルトキ又ハ廣告ニ於

テ一人ノミ之ヲ受クヘキモノトシタルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ受クヘキ者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ廣告中ニ之ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第五百三十二條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ其優等者ノミ報酬ヲ與フヘキトキハ其廣告ハ應募ノ期間ヲ定メタルトキニ限り其效力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ應募者中何人ノ行爲カ優等ナルカハ廣告中ニ定メタル者之ヲ判定ス若シ廣告中ニ判定者ヲ定メサリシトキハ廣告者之ヲ判定ス

應募者ハ前項ノ判定ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

數人ノ行爲カ同等ト判定セラレタルトキハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二款 契約ノ效力

第五百三十三條 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得但相手方ノ債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十四條 特定期物ニ關スル物權ノ設定又ハ移轉ヲ以テ雙務契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

不特定物ニ關スル契約ニ付テハ第四百一條第二項ノ規定ニ依リテ其物カ確定シタル時ヨリ前項ノ規定ヲ適用ス

第五百三十五條 前條ノ規定ハ停止條件附雙務契約ノ目的物カ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ滅失シタル場合ニハ之ヲ適用セス

物カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ毀損シタルトキハ其毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

物カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ毀損シタルトキハ其毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

成就ノ場合ニ於テ其選擇ニ從ヒ契約ノ履行又ハ其解除ヲ請求スルコトヲ

得但損害賠償ノ請求ヲ妨ヶス
第五百三十六條 前二條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外當事者雙方ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ債務ヲ履行スルコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ有セス

債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ失ハス但自己ノ債務ヲ免レタルニ因リテ利益ヲ得タルトキハ之ヲ債權者ニ償還スルコトヲ要ス

第五百三十七條 契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ其第三者ハ債務者ニ對シテ直接ニ其給付ヲ請求スル權利ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ第三者カ債務者ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ニ發生ス

第五百三十八條 前條ノ規定ニ依リテ第三者ノ權利カ發生シタル後ハ當事者ハ之ヲ變更シ又ハ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

第五百三十九條 第五百三十七條ニ掲ケタル契約ニ基因スル抗辯ハ債務者之ヲ以テ其契約ノ利益ヲ受クヘキ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第三款 契約ノ解除

第五百四十條 契約又ハ法律ノ規定ニ依リ當事者ノ一方カ解除權ヲ有スルトキハ其解除ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百四十一條 當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ契約ノ解除ヲ爲ス

第五百四十二條 契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲スシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ前條ノ催告ヲ爲サヌシテ直チニ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十三條 履行ノ全部又ハ一部カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ不能ト爲リタルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條 當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テハ契約ノ解除ハ其全員ヨリ又ハ其全員ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ解除權カ當事者中ノ一人ニ付キ消滅シタルトキハ他ノ者ニ付テモ亦消滅ス

第五百四十五條 當事者ノ一方カ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フ但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金錢ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス

解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ヶス
第五百四十六條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百四十七條 解除權ノ行使ニ付キ期間ノ定ナキトキハ相手方ハ解除權

ヲ有スル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ解除ヲ爲スヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ其期間内ニ解除ノ通知ヲ受ケサルトキハ解除權ハ消滅ス

第五百四十八條 解除權ヲ有スル者カ自己ノ行為又ハ過失ニ因リテ著シク又ハ加工若クハ改造ニ因リテ之ヲ他ノ種類ノ物ニ變シタルトキハ解除權ハ消滅ス

契約ノ目的物カ解除權ヲ有スル者ノ行爲又ハ過失ニ因ラスシテ滅失又ハ毀損シタルトキハ解除權ハ消滅セス

第二節 贈與

第五百四十九條 贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ財產ヲ無償ニテ相手方ニ與フル意思ヲ表示シ相手方カ受諾ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十條 書面ニ依ラサル贈與ハ各當事者之ヲ取消スコトヲ得但履行ノ終ハリタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

第五百五十一條 贈與者ハ贈與ノ目的タル物又ハ權利ノ瑕疵又ハ欠缺ニ付キ其責ニ任セス但贈與者カ其瑕疵又ハ欠缺ヲ知リテ之ヲ受贈者ニ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

負擔附贈與ニ付テハ贈與者ハ其負擔ノ限度ニ於テ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第五百五十二條 定期ノ給付ヲ目的トスル贈與ハ贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第五百五十三條 負擔附贈與ニ付テハ本節ノ規定ノ外雙務契約ニ關スル規定ヲ適用ス

第三節 賣買

第一款 總則

第五百五十五條 賣買ハ當事者ノ一方カ或財產ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十六條 賣買ノ一方ノ豫約ハ相手方カ賣買ヲ完結スル意思ヲ表示シタル時ヨリ賣買ノ效力ヲ生ス

前項ノ意思表示ニ付キ期間ヲ定メサリシトキハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定期内ニ賣買ヲ完結スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ豫約ハ其效力ヲ失フ

第五百五十七條 買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スルマテハ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其價額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十五條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス
第五百五十八條 賣買契約ニ關スル費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔スノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 買賣ノ效力

第五百六十條 他入ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタルトキハ賣主ハ其

權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負フ

第五百六十一條 前條ノ場合ニ於テ賣主カ其賣却シタル權利ヲ取得シテ之

ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

但契約ノ當時其權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ損害賠償ノ

請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十二條 賣主カ契約ノ當時其賣却シタル權利ノ自己ニ屬セサルコ

トヲ知ラサリシ場合ニ於テ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能

ハサルトキハ賣主ハ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買主カ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサル

コトヲ知リタルトキハ賣主ハ買主ニ對シ單ニ其賣却シタル權利ヲ移轉ス

ルコト能ハサル旨ヲ通知シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條 買賣ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ賣主カ

之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ其足ラサル部分ノ割合ニ

應シテ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミナレハ買主カ之ヲ買受ケサルヘカリ

シトキハ善意ノ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ハ善意ノ買主カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコ

トヲ妨げス

第五百六十四條 前條ニ定メタル權利ハ買主カ善意ナリシトキハ事實ヲ知

リタル時ヨリ惡意ナリシトキハ契約ノ時ヨリ一年内ニ之ヲ行使スルコト

ヲ要ス

第五百六十五條 數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナル場合及ヒ物ノ一

部カ契約ノ當時既ニ滅失シタル場合ニ於テ買主カ其不足又ハ滅失ヲ知ラ

サリシトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五百六十六條 買賣ノ目的物カ地上權、永小作權、地役權、留置權又ハ質權

ノ目的タル場合ニ於テ買主カ之ヲ知ラサリシトキハ之カ爲メニ契約ヲ爲

シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ限り買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコ

トヲ得其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動產ノ爲メニ存セリト稱セシ地役權カ存

トヲ得其不動產ニ付キ登記シタル賃貸借アリタル場合ニ之ヲ

セサリシトキ及ヒ其出捐ノ

前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ買主カ事實ヲ知リ

タル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百六十七條 買賣ノ目的タル不動產ノ上ニ存シタル先取特權又ハ抵當

權ノ行使ニ因リ買主カ其所有權ヲ失セタルトキハ其買主ハ契約ノ解除ヲ

爲スコトヲ得

買主カ出捐ヲ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトキハ賣主ニ對シテ其出捐ノ

償還ヲ請求スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケタルトキハ其賠償ヲ請求スルコ

トヲ得

第五百六十八條 強制競賣ノ場合ニ於テハ競落人ハ前七條ノ規定ニ依リ債務者ニ對シテ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債務者カ無賣力ナルトキハ競落人ハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ債務者カ物又ハ權利ノ欠缺ヲ知リテ之ヲ申出テス又ハ債權者カ之ヲ知リテ競賣ヲ請求シタルトキハ競落人ハ其過失者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百六十九條 債權ノ賣主カ債務者ノ資力ヲ擔保シタルトキハ契約ノ當時ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

辨濟期ニ至ラサル債權ノ賣主カ債務者ノ將來ノ資力ヲ擔保シタルトキハ

六條ノ規定ヲ準用ス但強制競賣ノ場合ハ此限ニ在ラス

第五百七十條 買賣ノ目的物ニ隱レタル瑕疵アリタルトキハ五百六十六條ノ規定ヲ準用ス

第五百七十一條 第五百三十三條ノ規定ハ第五百六十三條乃至第五百六十

六條及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百七十二條 賣主ハ前十二條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特

約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實及ヒ自ラ第三者ノ爲メニ設

定シ又ハ之ニ讓渡シタル權利ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百七十三條 買賣ノ目的物ノ引渡ニ付キ期限アルトキハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノト推定ス

第五百七十四條 買賣ノ目的物ノ引渡ト同時ニ代金ヲ拂フヘキトキハ其引

渡ノ場所ニ於テ之ヲ拂フコトヲ要ス

第五百七十五條 未タ引渡ササル賣買ノ目的物カ果實ヲ生シタルトキハ其

果實ハ賣主ニ屬ス

第五百七十六條 買賣ノ目的ニ付キ權利ヲ主張スル者アリテ買主カ其買受

シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニハ一部ヲ失フ虞アルトキハ買主ハ其危險ノ限度ニ應

シ代金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但賣主カ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十七條 買受ケタル不動產ニ付キ先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記

アルトキハ其期限ノ到来スルマテハ利息ヲ拂フ義務ヲ負フ但代金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得

但賣主ハ買主ニ對シテ遲滯ナク滌除ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十八條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ買主ニ對シテ代金ノ供託ヲ請

求スルコトヲ得

第五百七十九條 不動產ノ賣主ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル買戻ノ特約ニ

依リ買主カ拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還シテ其實買ノ解除ヲ爲ス

コトヲ得但當事者カ別段ノ意思ヲ表示セサリシトキハ不動產ノ果實ト代

金ノ利息トハ之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第五百八十條 買戻ノ期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期

間ヲ定メタルトキハ之ヲ十年ニ短縮ス

第三款 買戻

買戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス

第五百八十一條 買賣契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルトキハ買戻ハ

第三者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

登記ヲ爲シタル賃借人ノ權利ハ其殘期一年間ニ限り之ヲ以テ買主ニ對抗

在ラス

第五百八十二條 買主ノ債權者カ第四百二十三條ノ規定ニ依リ買主ニ代ハ

リテ買戻ヲ爲サント欲スルトキハ買主ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ不動產ノ現時ノ價額ヨリ賣主カ返還スヘキ金額ヲ控除シタル残額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨済シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ賣主ニ

返還シテ買戻權ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

第五百八十三條 買主ハ期間内ニ代金及ヒ契約ノ費用ヲ提供スルニ非サレハ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

第五百八十四條 不動產ノ共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ以テ其持分ヲ賣却

買主又ハ轉得者カ不動產ニ付キ費用ヲ出タルトキハ賣主ハ第一百九十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ償還スルコトヲ要ス但有益費ニ付テハ裁判所ハ賣主ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得ス

第五百八十四條 不動產ノ共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ以テ其持分ヲ賣却シタル後其不動產ノ分割又ハ競賣アリタルトキハ賣主カ受ケタル若クハ受クヘキ部分又ハ代金ニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得但賣主ニ通知セシテ爲シタル分割及ヒ競賣ハ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百八十五條 前條ノ場合ニ於テ買主カ不動產ノ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ競賣ノ代金及ヒ五百八十三條ニ掲タル費用ヲ拂ヒテ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

第五百八十五條 共有者ヨリ分割ヲ請求シタルニ因リ買主カ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ其持分ノミニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四節 交換

第五百八十六條 交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非サル財產權ヲ移轉

當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルトキハ其金錢ニ付テハ賣買ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス

第五節 消費貸借

第五百八十七條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類、品等及ヒ數量ノ同シキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百八十八條 消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成立シタルモノト看做ス

第五百八十九條 消費貸借ノ豫約ハ爾後當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其效力ヲ失フ

第五百九十條 利息附ノ消費貸借ニ於テ物ニ隱レタル環褫アリタルトキハ貸主ハ環褫ナキ物ヲ以チ之ニ代フルコトヲ要ス但損害賠償ノ請求ヲ妨

無利息ノ消費貸借ニ於テハ借主ハ環褫アル物ノ價額ヲ返還スルコトヲ得ス但貸主カ其環褫ヲ知リテ之ヲ借主ニ告ケサリシトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十二條 借主カ第五百八十七條ノ規定ニ依リテ返還ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ其時ニ於ケル物ノ價額ヲ償還スルコトヲ要ス但

第五百九十二條 借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十三條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ無償ニテ使用及ヒ收益ヲ爲シタル後返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百九十三條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ無償ニテ使用及ヒ收益ヲ爲シタル後返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百九十四條 借主ハ契約又ハ其目的物ノ性質ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ其物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十五條 借主ハ貸主ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ借用物ノ使用又ハ收益ヲ爲シムルコトヲ得ス

第五百九十四條 借主ハ契約又ハ其目的物ノ性質ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ其物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十六條 第五百五十一條ノ規定ハ使用貸借ニ之ヲ準用ス

第五百九十七條 借主ハ契約ニ定メタル時期ニ於テ借用物ノ返還ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十八條 借主ハ借用物ヲ原狀ニ復シテ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得

第五百九十九條 使用貸借ハ借主ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第六百條 契約ノ本旨ニ反スル使用又ハ收益ニ因リテ生シタル損害ノ賠償及ヒ借主カ出タル費用ノ償還ハ貸主カ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年内ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第七節 貸貸借

第六百一條 貸貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及ヒ收益ヲ爲サ

シムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其資金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效

第六百二條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者カ賃貸借ヲ爲ス場合ニ於テ
ハ其賃貸借ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ賃貸借ハ十年

二 其他ノ土地ノ賃貸借ハ五年

三 建物ノ賃貸借ハ三年

四 動産ノ賃貸借ハ六个月

第六百三條 前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間滿了前土地ニ付

テハ一年内建物ニ付テハ三個月内動産ニ付テハ一个月内ニ其更新ヲ爲ス

コトヲ要ス

第六百四條 賃貸借ノ存續期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長

キ期間ヲ以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ二十年ニ短縮ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但更新ノ時ヨリ二十年ヲ超ユルコト

ヲ得ス

第二款 賃貸借ノ效力

第六百五條 不動產ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其不動產ニ付キ

物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第六百六條 賃貸人ハ賃貸物ノ使用及ヒ收益ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ

負フ

賃貸人カ賃貸物ノ保存ニ必要ナル行爲ヲ爲サント欲スルトキハ賃借人ハ

之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六百七條 賃貸人カ賃借人ノ意思ニ反シテ保存行爲ヲ爲サント欲スル場

合ニ於テ之カ爲メ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルト

キハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百八條 賃借人カ賃借物ニ付キ賃貸人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ出タシ

タルトキハ賃貸人ニ對シテ直チニ其償還ヲ請求スルコトヲ得

賃借人カ有益費ヲ出タルトキハ賃貸人ハ賃貸借終了ノ時ニ於テ第百

九十六條第二項ノ規定ニ從ヒ其償還ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ハ賃貸人

ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第六百九條 収益ヲ目的トスル土地ノ賃借人カ不可抗力ニ因リ借賃ヨリ少

キ収益ヲ得タルトキハ其収益ノ額ニ至ルマテ借賃ノ減額ヲ請求スルコト

ヲ得但宅地ノ賃貸借ニ付テハ此限ニ在ラス

ハ賃借人ハ其滅失シタル部分ノ割合ニ應シテ借賃ノ減額ヲ請求スルコト

ヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的

ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得ス

賃借人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシ

メタルトキハ賃貸人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十三條 賃借人カ適法ニ賃借物ヲ轉貸シタルトキハ轉借人ハ賃貸人ニ對シテ直接ニ義務ヲ負フ此場合ニ於テハ借賃ノ前拂ヲ以テ賃貸人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス

前項ノ規定ハ賃貸人カ賃借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ得ス

第六百十四條 借賃ハ動產、建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ年末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其季節後遲滯ナク之ヲ拂フコトヲ要ス

第六百十五條 賃借物カ修繕ヲ要シ又ハ賃借物ニ付キ權利ヲ主張スル者アルトキハ賃借人ハ遲滯ナク之ヲ拂フコトヲ要ス但賃貸人ニ通知スルコトヲ要ス但賃貸人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第六百十六條 第五百九十四條第一項、第五百九十七條第一項及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ賃貸借ニ之ヲ準用ス

第三款 賃貸借ノ終了

第六百十七條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃貸借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

第六百十八條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間内ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百十九條 賃貸借ノ期間滿了ノ後賃借人カ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃貸人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前賃貸借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但敷金ハ此限ニ在ラス

第六百二十條 賃貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミニテノミ其效力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百二十一條 賃貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミニテノミアルトキト雖モ賃貸人又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十二條 第六百條ノ規定ハ賃貸借ニ之ヲ準用ス

第六百二十三條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

アルトキト雖モ賃貸人又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十四條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ

ヲ請求スルコトヲ得ス

第八節 雇傭

第六百二十一條 賃借人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賃貸借ニ期間ノ定期ヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

アルトキト雖モ賃貸人又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十二條 第六百條ノ規定ハ賃貸借ニ之ヲ準用ス

期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルコトヲ得第六百二十五條 使用者ハ労務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ譲渡スコトヲ得ス

労務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス

労務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百二十六條 履傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ超過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商工業見習者ノ履傭ニ付テハ之ヲ十年トス

前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ履傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ履傭ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

第六百二十八條 當事者カ履傭ノ期間ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十九條 當事者カ履傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ已ムコトヲ得六ヶ月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三個月前ニテモ解約ス

第六百三十條 當事者カ履傭ノ期間ヲ定メタルトキハ各當事者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第六百三十一條 使用者カ履傭ノ期間満了ノ後労務者カ引續キ其勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前履傭同一ノ條件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得前履傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ満了ニ因リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラス

第六百三十二條 第六百二十條ノ規定ハ履傭ニ之ヲ準用ス
第六百三十三條 請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百三十四條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ相

請負

第六百三十五條 請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百三十六條 第六百三十二條ノ規定ハ履傭ニ之ヲ準用ス

第六百三十七條 請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ得ス

當ノ期限ヲ定メテ其瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ得但瑕疵カ重要ナラサル場合ニ於テ其修補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス
注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代へ又ハ其修補ト共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第五百三十二條ノ規定ヲ準用ス

第六百三十六條 前二條ノ規定ハ仕事ノ目的物ニ瑕疵カ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ適物其他土地ノ工作物ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 前三條ニ定メタル瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ仕事ノ目的物ヲ引渡シタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百三十八條 土地ノ工作物ノ請負人ハ其工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ後五年間其擔保ノ責ニ任ス但此期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作物ニ付テハ之ヲ十年トス

第六百三十九條 第六百三十七條及ヒ前條第一項ノ期間ハ普通ノ時效期間内ニ限り契約ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六百四十條 請負人ハ第六百三十四條及ヒ第六百三十五條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十一條 請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百四十二條 注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

第六百四十三條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行爲ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百四十四條 受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第六百四十五條 受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又委任終了ノ後ハ遲滯ナク其顛末ヲ報告スルコトヲ要

第六百四十六條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

第六百三十四條 受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ

(三〇)

移轉スルコトヲ要ス
第六百四十七條 受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第六百四十八條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

受任者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

委任カ受任者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ其履行ノ半途ニ於テ終了シタルトキハ受任者ハ其既ニ爲シタル履行ノ割合ニ應シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十九條 委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其前拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十條 受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ費用ヲ出タシタルトキハ委任者ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任者ヲシテ自己ニ代ハリテ其辨濟ヲ爲サシム又其債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スル爲メ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ委任者ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十一條 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニモ之ヲ解除スルコトヲ得當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スルコトヲ要ス但已ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十二條 第六百二十條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第六百五十四條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者、其相續人又ハ法定代理人ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十五條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百五十六條 本節ノ規定ハ法律行爲ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十一節 寄託

第六百五十七條 寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百五十八條 受寄者ハ寄託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又受寄者カ第三者ヲシテ受寄物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第

百五條及ヒ第七百七條第二項ノ規定ヲ準用ス
第六百五十九條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ受寄物ノ保管ニ付キ自己ノ財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

第六百六十條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滞ナク其事實ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十一條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但寄託者カ過失ナクシテ其性質若クハ瑕疵ヲ知ラサリシトキ又ハ受寄者カ之ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十三條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

第六百六十四條 寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者カ正當ノ事由ニ因リテ其物ヲ轉置シタルトキハ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ得

第六百六十五條 第六百四十六條乃至第六百四十九條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ寄託ニ之ヲ準用ス

第六百六十六條 受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第十二節 組合

第六百六十七條 組合契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第六百六十八條 各組合員ノ出資其他ノ組合財產ハ總組合員ノ共有ニ屬ス

第六百六十九條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ組合員カ其

出資ヲ爲スコトヲ急リタルトキハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲ス

コトヲ要ス
第六百七十條 組合ノ業務執行ハ組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

組合契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アルトキハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

組合ノ常務ハ前二項ノ規定ニ拘ハラス各組合員又ハ各業務執行者之ヲ專

行スルコトヲ得但其結了前ニ他ノ組合員又ハ業務執行者カ異議ヲ述べタ

ルトキハ此限ニ在ラス

第六百七十二條 組合契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ組合員ニ業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其組合ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得

ス又解任セラルコトナシ

正當ノ事由ニ因リテ解任ヲ爲スニハ他ノ組合員ノ一致アルコトヲ要ス
第六百七十三條 各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサルトキト
雖モ其業務及ヒ組合財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
第六百七十四條 當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メサリシトキハ其割合ハ各
組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ定ム
利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其割合ハ利益及ヒ
損失ニ共通ナルモノト推定ス
第六百七十五條 組合ノ債權者ハ其債權發生ノ當時組合員ノ損失分擔ノ割
合ヲ知ラサリシトキハ各組合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコト
ヲ得
第六百七十六條 組合員カ組合財產ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處
分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得
組合員ハ清算前ニ組合財產ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス
第六百七十七條 組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺ス
ルコトヲ得ス
第六百七十八條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ又ハ或
組合員ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各組合員ハ何時
ニテモ脱退ヲ爲スコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外組
合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス
組合ノ存續期間ヲ定メタルトキト雖モ各組合員ハ已ムコトヲ得サル事由
アルトキハ脱退ヲ爲スコトヲ得
第六百七十九條 前條ニ掲タル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退
一 死亡
二 破産
三 禁治產
四 除名
第六百八十條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限リ他ノ組合員ノ
一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非
サレハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス
第六百八十一條 脱退シタル組合員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ脱退ノ當
時ニ於ケル組合財產ノ狀況ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス
第六百八十二條 組合ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ因リテ
脱退シタル組合員ノ持分ハ其出資ノ種類如何ヲ問ハス金錢ヲ以テ之ヲ拂
戻スコトヲ得
第六百八十三條 脱退ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ付テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコ
トヲ得
第六百八十四條 第六百二十條ノ規定ハ組合契約ニ之ヲ準用ス
第六百八十五條 組合カ解散シタルトキハ清算ハ總組合員共同ニテ又ハ其
選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス
第六百八十六條 清算人ノ選任ハ總組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
第六百八十七條 清算人數人アルトキハ第六百七十條ノ規定ヲ準用ス
組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ

第六百七十二條 第六百七十二條ノ規定ヲ準用ス
第六百八十八條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準用
ス
第六百九十一條 定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期
金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返
還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ
控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス
第六百九十二條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六百九十三條 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタ
ルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存
續スルコトヲ宣告スルコトヲ得
前項ノ規定ハ第六百九十一條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス
第六百九十四條 本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス
第六百九十五條 和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ム
ルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス
第六百九十六條 當事者ノ一方カ和解ニ依リテ争ノ目的タル權利ヲ有スル
モノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於
テ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テ
タルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトス
第三章 事務管理
第六百九十七條 義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其
事務ノ性質ニ從ヒ最セ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲ス
コトヲ要ス
第六百九十八條 管理者カ本人ノ意思ヲ知リタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキ
ハ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲スコトヲ要ス
第六百九十九條 管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滯ナク本人ニ通知ス
ルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知ルトキハ此限ニ在ラス
ヲ免レシムル爲メニ其事務ノ管理ヲ爲シタルトキハ惡意又ハ重大ナル過
失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス
第六百九十九條 管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滯ナク本人ニ通知ス
ルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知ルトキハ此限ニ在ラス
第七百條 管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人カ管理ヲ爲スコト
ヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人
ノ意思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコト明カナルトキハ此限ニ在ラ
ス

第七百二條 管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル費用ヲ出タルトキハ本人ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得

管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條第二項ノ規定ヲ準用ス

管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ前二項ノ規定ヲ適用ス

第四章 不當利得

第七百三條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第七百四條 惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第七百五條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セサルコトヲ知リタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六條 債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス

第七百七條 債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ、擔保ヲ拋棄シ又ハ時效ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

第五章 不法行爲

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百十條 他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財產權ヲ害シタル場合トス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財產以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財產權ヲ害セラリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘサリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責ニ任セス

第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

第七百二十二條 第四百十七條ノ規定ハ不法行爲ニ因ル損害賠償ニ之ヲ準用ス

第七百二十三條 他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第七百二十四條 不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス不法行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十五條 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス

使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨

第七百十六條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十七條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ヲ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第七百十八條 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十九條 敷占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百二十條 敷占有者ニ共同ノ不法行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶ニテ其賠償ノ責ニ任ス共同行爲者中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ

第七百二十一條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

第七百二十二條 第四百十七條ノ規定ハ不法行爲ニ因ル損害賠償ニ之ヲ準用ス

第七百二十三條 他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第七百二十四條 不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス不法行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

○國務大臣侯爵伊藤博文君演壇ニ登ル

ニ就キマシテ大略ヲ陳述ニ及ビマス、本法ハ去ヌル二十五年ノ第三議會ニ於キマンテ現在ノ民法ヲ修正スルト云フ議ニ基イテ延期法案ガ提出ニ相成リマシテ上下兩院通過ノ後同年ノ十一月ニ於テ發布セラレマシテ而シテ修正ノ期限ヲ明治二十九年十二月三十一日マテト定メラレニアリマス、右法案ノ結果ニ基キマシテ政府ハ現在ノ民法ヲ修正スル義務ヲ負ロマシタノデアリマス、翌二十六年ノ三月ニ於キマシテ勅令ヲ發布サレテ修正委員ヲ組織サレマシテ本大臣ハ其總裁ノ任命ヲ蒙リマシタ、此法典調査委員會ノ組織ト申シマスルモノハ、第一ニ高等行政官及司法官、其次ニ大學ノ教授、帝國議會ノ議員、辯護士、又學識經驗アル民間ノ諸氏ヲ以テ集合サレテ居リマス、其中ニ於テ本院ノ議員中ヨリハ殆ト三分ノ一強ノ委員ヲ選定サレテアリマス、此人員ニ依ツテ二箇年有餘ノ間ニ修正ヲ終リマシタル所ノ民法ノ部分ガ即チ今回ノ議會ニ提出サレマシタノデゴザイマス、其法典調査會ニ於キマシテ委員ノ諸氏ハ異常ニ勉強致シマシテ斯ノ如ク迅速ニ運ビマシタノデアリマスガ、此間ニハ十分ナル討議ヲ盡シ又日本ノ習慣及舊來ノ法律等ヲモ參酌ノ居クベキ所マデハ十分ニ研究ヲ盡シ、且ツ與國ノ民法等ニモ参考致シマシタノデゴザイマス、故ニ此修正ノ結果トシテハ決シテ佛國民法ニ據ルトカ、或ハ英吉利ノ習慣法ニ係ルトカ或ハ其他ノ諸國ノ民法ニ依ツテ修正ノ機軸ヲ成シタモノデハゴザイマセヌ、舊來發行サレテアル所ノ即チ現在シテ居ル所ノ民法ニ於キマシテ日本ノ習慣上ニ幾分カ抵觸スル所ガアツテ是アハ事實上ニ於テ差支ガアラウト云フ所ヨリシテ即チ延期法案ガ出マシタノデアリマス、其意ヲ斟酌致シテ修正ヲ致シマシタモノデアリマス、右ノ譯合ヲ以テ修正ガ成立ツテ居リマスルニ依ツテ此修正ニ依ツテ實行サル、ニ於テハ決シテ事實上ニ差支ハナカラウト云フ政府ノ決議ニ依ツテ裁可ヲ蒙テ即チ帝國議會ニ提出致シマシタ、既ニ衆議院ノ可決ヲ經テ本院ニ參リテ居ルノデアリマス、如何ニモ短縮ノ時日デハアリマスルケレドモ即チ本院ノ議員中ヨリモ十一名ノ委員モ其中ニ加ツテ十分ニ今日マテニ討議ヲ盡シ研究ヲ盡シタルノ結果トシテ成立ツタル所ノ修正案デゴザイマス、政府ハ本院ニ向テ本會期ニ於テ此議了ニ相成ランコトヲ飽マデ希望致シマスルデ諸君ニ於テ十分ノ御勉勵ヲ以テ速ニ議了ニナランコトヲ希セマス

〔村田保君演壇ニ登ル〕

○村田保君 本員ハ此民法修正ノ事ニ就キマシテハ初期議會ヨリ致シマシテ大分關係ヲ持テ居リマスルカナシテ諸君ノ中ニハ御存シノイラクシヤラヌ御方モ有ラウカト思ヒマスルカラシテ行掛リ上ノ事ヲ一應辯ジマシタラバ諸

君ノ御参考ニモ爲リ、不必要ナ事デモナイト存シマスルカラシテ一應申上げ置キタイト思フ、今日此民法修正案ガ出マシタ根源ト申シマスルモノハ全ク此初期ノ議會ニアラウト存シマス、ソレデ此一體既成法典中民法ノ施行ト申シマスルモノハ二十六年一月カラト云フコトニナツテ居リマシタ、商法ハ二十四年一月カラト云フコトニナツテ居リマシタ、ソレデ初期ノ議會ニ於キマシテ商法ヲバ民法ト同様ニ二十六年一月マテト同ジヤウナ施行期限ニシタイト云フ法律案ガ出マシテ、ソレガ通過ヲ致シテ政府モ其通、發布ニナツテ居リマス、續イテ初期ノ議會ノ時分ニ民法竝ニ此商法ノ修正ヲ致シタイト云フコトガ本院カラ建議ガ出テ居ルノデ、然ル處ソレハ政府デ採用ニナリマセヌデ居リマシタ、ソレデ第三議會デアリマス二十五年ノ第三議會ニ於キマシテ即チ本員ガ民法竝ニ商法ヲバ修正ヲ行フガタメニ二十九年十二月三十一日マデ延期シタイト云フコトヲバ發議ヲ致シマシテ、其時分ニ百十餘名ノ賛成ヲ得マシテ、其時分ノ國務大臣ニ既ニ三名程ハ非常ニ反對ヲサレテ此議事ト申シマスルモノハ丁度三日掛リマシタ、三日掛リマシテ熱心ニ政府ハ反對ヲサレマシタケレドモ、其結果タルヤ六十二名ニ對スル百二十三名ノ大多數ヲ以テ本院ヲ通過シテ居ル、サウ致シテソレガ政府ヘ出マシテ其後二十五年十月七日ニ民法商法施行取調委員ト云フモノヲ政府デ設ケマシテ是ハ丁度斷行ノ者ト延期ノ者ヲ半々デ組立ツタモノデ、其時分ニ是モ數日間討論ノ末、民法…商法ハ一部施行ニナリマシテ或ハ會社法トカ爲替法トカ云フモノヲ一部施行シテ述ハ延期スルト云フコトニ爲リマシタ、ソレカラ民法ハ全部延期ト云フコトニ爲リマシタ、其後二十六年四月十三日ニ法典調査會ガ出來マシテ、ソレガ今日マテ從事致シマシテ此民法ノ修正モ出來マシタ所以デアリマス、本員ハ一體此既成法典ニハ最モ反對ヲ致シマシタ一人デゴザイマスマスルニ依ツテ此修正ニ依ツテ實行サル、ニ於テハ決シテ事實上ニ差支ハナカラウト云フ政府ノ決議ニ依ツテ裁可ヲ蒙テ即チ帝國議會ニ提出致シマシタ、既ニ第三議會ニ於キマシテ此大體不都合ナル點ヲ餘程澤山掲ゲテ其時分ニ述ベマシタ、其本員ノ兼々不都合ト見マスル點ハ多クハ今日大概此度ヲ修正デハ取除ケテ居ル、本員ハ此不都合ノ點ヲ今日段々述ベタウゴザイマスルガ、實ハ今日ハ本員ハ是カラ駄ヘ出ナクチャナラヌ用事がゴザイマスルカラニ加ツテ十分ニ今日マテニ討議ヲ盡シ研究ヲ盡シタルノ結果トシテ成立ツタル所ノ修正案デゴザイマス、政府ハ本院ニ向テ本會期ニ於テ此議了ニ相成ト云フモノハ既ニ其體裁ト云フモノハ教科書トカ或ハ註釋ト云フヤウナ體裁トカ云フモノハ日本人ノ夢ニダモ知ラヌ事が有リマシタガ、是モ取レテ居リ等モ今度ハ物權カラ除イテアリマス、或ハ自然義務ト云フヤウナモノモゴザイマシテ、シテモ宜イ、シナイデモ宜イ又人ニ催促モ出來ナケレバ裁判所ヘ

訴ヘルコトモ出來ナイト云フヤウナ事ガ、クドノシク書イテゴザイマシタ、ソレ故ニ從來ノ民法デゴザイマスト千三百條カラ餘ニナツテ居リマシタが今日ノハ殆ド其半分デ七百餘條デ事ガ濟ムト云フヤウニ簡略ニナツテ居リマス、デ本員ノ最モ反對ヲ致シマシタ一ツノ原因ト申シマスルモノハ既成ノ民法ト云フモノハ實ニ外國人ノ手ニ成ツテ居リマス、外國人ノ手ニ成リマシタモノヲ殆ド其儘……多少ノ修正ハゴザイマスケレドモマア其儘出シタ云ウテモ宣イヤウナモノデアリマシタ、ソレガ本員ハ甚ダ遺憾ト思フ、ナゼカト言ヘバ日本ノ民法ヲバ日本人ガ作ラヌデ外國人ノ手デ作タモノヲ出シタラ實ニ世界各國ニ對シテ一大耻辱ダラウト云フノガ本員ノ最モ遺憾ニ思ツテ居ル所デゴザイマス、然ル所ガ此度ノ修正案ハ全ダ日本人ノ手ニ成ツタモノデ決シテ外國人ノ手ヲ借りテ出來タモノデナイ、此一點ニ就イテモ此度ノ民法ノ修正ト申シマスモノハ既成ノ民法トハ一大面目ヲ改メテ居リマス、本員ハ既成民法ト此修正ニナツタノト比較致シマスルト今日ノ修正ニナリマシタ方ガ數層優シテ居ルモノト信ジテ居リマスカラ本員ハ初カラノ行掛リモゴザリマス故ソレダケノ事ヲ一應申上ゲテ置キマシタラ諸君ノ御参考ノ一端ニモ爲ラウト思ヒマスカラ是ダケヲ申上ゲテ置キマス

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 一寸後ノ例ニモ爲リマスカラ一應申上ゲテ置キマスガ、唯今村田君ニ發言ヲ許シマシタノハ是ハ全ク此法案ニ就イテ諸君ノ御参考ノタメニ希望ヲ述べタイト云フコトデアリマスカラ許シマシタノデアリマス、規則ニアル手續ニ依リマスレバ政府委員……大臣若クハ政府委員カラ辯明ガ終レバ直ニ委員ニ付スル手續ニナルノデアリマスルカラ是ハ特ニ村田君カラノ請求デアツタニ依ツテ許シタモノト御承知ヲ願ヒタイ、……本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○渡正元君 本員ハ此際ニ於テ緊急動議ヲ提出致シマス
○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 併シ唯今ハ委員ノ選舉ノ事ニ移ツテ居リマスガ其事デゴザイマスカ
○渡正元君 其事デゴザイマス、抑此民法法案ハ國家百年ノ法典ノ基礎ニ爲ルモノデ其關係スル所廣ク重大ナルモノデアリマス、而シテ其條項ハ七百二十三條ノ斯ノ如ク浩瀚重大ナル法典ヲ委員ニ付託シテ審査セシムルコトニ附イテハ顧ルニ帝國議會開會ノ日數餘ス所僅ニ一週日ニ過ギマセヌ、其中大祭日日曜ヲ除ケバ僅ニ五六日間ニ止マル、此僅ニ五六日間ニ於テ此重大ナル法典且ツ七百二十三條ニ涉ツテ居ル法典ヲ審査セシムルト云フコトハ思ヒモ寄ラザル事ト本員ハ考ヘマス、若シ之ヲ此五日間ニ於テ審査結了スルコトヲ得ルト言フ者ガ有レバ、ソレハ審査スルニアラズシテ逐條素讀シタト言ハザルヲ得ヌ、若シ之ヲ審査修理スルコトガ出來ズシテ逐條素讀シテ盲判ヲ捺ス云フコトデアツタナラバ貴族院ノ體面ニ於テ如何デアリマセウカ、貴族院ハ國家百年ノ基礎タル法典ノ基礎タル民法ヲ素讀スルガ如クニシテ決了シタ云フコトデアツタナラバ貴族院ハ其職掌ニ於テ世ノ非難ヲ招キ又天下後世ノ嗤ヲ貽スコトデアラウト本員ハ實ニ苦慮ニ堪ヘマセヌ、依ツテ此際議院法第二十五條ニ據ツテ繼續委員ヲ置クコトヲ建議致シマス、而シテ帝國議會閉會ノ後、繼續委員ニ之ヲ付託シテ反覆審議シテ十分ニ審査ヲ遂ゲサセタイト云フ希望デアリマス、故ニ今特別委員選定ノ場合ニ於テ此緊急動議ヲ提出シテ此緊急動議ノ成否ヲ待ツテ然ル後、議事日程第二項ノ特別委員人員並ニ選定ノ方法ヲ定メラレシコトヲ望ミマスノデアリマス、若シ幸ニ同感ノ賛成者議場ノ多數ノ賛同ヲ得テ此動議ノ採用セラレシコトヲ希望致シマス
○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 渡君ニ一寸確メテ置キマスガ、唯今ノ御話ハ繼續委員ヲ置キタイト云フ御動議デアリマスカ、或ハ特別委員ヲ置クト云フ御動議デアリマスカ、其動議ヲ一ツ伺ツテ置キマス
○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 特別委員ヲ置クト云フコトハ既ニ議事日程ニ載ツテ居リ且ツ議長カラモ御宣告ヲ受ケテ居リマスカラ此際ニ於テ緊急動議トシテ繼續委員ヲ置クト云フコトヲ提出致シタノデゴザイマス
○子爵津輕承敍君 渡君ニ賛成
○瀧口吉良君 私ハ繼續委員ヲ置クト云フコトニハ大反対デアリマス、ナゼトナラバ……
○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 暫ク御待チ下サイ
(瀧口吉良君「賛成ガアツテ成立チハシマセヌカ」ト述フ)
併ナガラ未ダ其事ヲ議スルト云フコトノ順序ニ及シテハ居リマセウカラ暫ク御待チ下サイ、議事日程ノ變更ニ係ルノデアリマスカラ……唯今御聽ノ通渡君カラ動議ガ出テ賛成ガ有リマシタ以上ハ是ハ即チ議事日程ヲ變更シテ唯今ノ動議ノ如何ヲ決スル事ニ爲リマス、先ツ議事日程ヲ變更スルヤ否ヤノ決ヲ採ルコトニ爲リマス、渡君ヨリ繼續委員ヲ置キタイト云フ御動議ガ出テ居リマス、贊成ガゴザイマス、依ツテ議事日程ヲ變更追加スルヤ否ヤノ決ヲ採リマス、議事日程ヲ變更シテ渡君ノ動議ヲ議スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス
○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 少數デゴザイマス、依ツテ消滅致シマシタ
○柴原和君 賛成致シマス
○小原重哉君 賛成致シマス

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 西五辻男爵ヨリ委員ノ數ヲ十五名トシテ議長ニ於テ選定ニナルヤウニ致シタイト云フ動議、此動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長者 多數

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 多數デゴザイマス

○渡正元君 本員ハ今日赤坂離宮ニ召サレテ參内致シマスニ附イテ是ヨリ退席致シマス

〔「本員モ退席致シマス」ト述ル者アリ〕

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 次ニ獸疫豫防法案、政府提出、衆議院回付、會議ヲ開キマス、是ハ本院ヨリ送付致シタルノヲ衆議院ニ於テ修正ニナリマシタルニ依ツテ再び會議ニ付シタノデアリマス、依ツテ三讀會ノ順序ヲ經ル會議デハナイノデアリマス、此可否ヲ決スルダケノ會議デゴザイマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマス

(有賀書記官朗讀)

右貴院ノ送付ニ關ル政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十

五條ニ依リ及回付候也

明治二十九年三月十六日

衆議院議長楠本正隆

貴族院議長侯爵峰須賀茂韶殿
(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

獸疫豫防法案

第二條 獣類獸疫ニ罹リタルコト若ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタル所有者、管理人又ハ獸醫ハ直ニ其ノ旨ヲ所轄警察署又ハ市町村長^{特別市制ヲ施行}ニ準^{スル市ニ於テハ}ノ^{テハ}區長又ハ之ニ准^スヘキ者ニ届出ヘシ

(政府委員藤田四郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(藤田四郎君) 此獸疫豫防法案ハ本院ニ於キマシテ最初議決相成リマシテ衆議院へ送付セラレタモノデゴザイマス、衆議院委員會ニ於キマシテ調査中本年三月五日デゴザイマシタ沖繩縣ノ郡區ニ關スル編成ニ就キマシテ勅令ガ出マシタソレガタメニ沖繩縣役所廳ト云フモノガ廢セラレマシテ其他ノ名前ト爲リマシテ從ツテ獸疫豫防法案第二條ニ於キマシテ割註ノ所ニ

「沖繩縣ニ於テハ役所廳」トゴザイマス所ガ此勅令ノ變更ニ依リマシテ斯ウ云フモノガ今年四月一日ヨリ無クナリマス事ニ爲リマス、就キマシテハ丁度衆議院ニ於キマシテ調査中デゴザイマシテ彼ノ勅令モ出マシタコトデゴザン

スルカラ、ソレニ能ク釣合フヤウニナツタ方ガ宜イト云フコトノ議デゴザイシテ此ヤウニ改マリマシタ譯デゴザンスル、政府ニ於キマシテモ最モ希望致ス所ノ事柄デゴザンシテドウシテモ此法律ハ斯ウ改マルコトハ是ハ必要ト認メマシタ譯デアリマス、故ニ此修正ニ就キマシテハ本院ノ諸君モ御賛成アランコトヲ希望致シマス

○田中芳男君 此修正ハ唯今ノ政府委員カラ述ベラレマシタ通勅令ノ結果トシテ斯ヤウニ修正セネバナラスト云フコトニ爲リマシタノデ何モ他ノ修正トハ違ツテ居リマシテ是非斯様ニセネバナラヌト云フ譯デアツテ其理由ハ明瞭

デアリマスルカラシテ至極此修正通ニシタラ宜カラウト考ヘマスカラ本員ハ最モ賛成ヲ致シマス

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 別ニ御發言ガナイト存ジマスニ依ツテ衆議院ノ修正ヲ可トスルヤ否ヤノ決ヲ採リマス、衆議院ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ロマス

起立者 多數

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 多數デゴザイマス次ニ日本勸業銀行法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ヲ開キマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマス

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

日本勸業銀行法案
(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

明治二十九年三月十四日

衆議院議長楠本正隆

貴族院議長侯爵峰須賀茂韶殿
(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

日本勸業銀行法

第一章 總則

第一條 日本勸業銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ二百圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監査役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス

監査役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監査ス

第七條 總裁副總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期満限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期満限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期満限ノ後再選スルコトヲ得

總裁副總裁理事及監査役ハ任命若ハ選定ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限ル

第八條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會
第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス
第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ總裁之ヲ招集スルコトヲ得

第十一條 監査役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但シ法定代理人ハ此ノ限ニ在ラス

日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルコトヲ得ス

第十三條 株主ノ議決權ハ十株ニ付キ一箇トス但シ十一株以上ヲ有スル株主ニ在リテハ五十株ヲ増ス每ニ一箇ヲ加フ他人ノ代理ヲ爲ス者ハ五人以上ヲ代理スルコトヲ得ス又其ノ株數ハ總株數ノ十分ノ二以上ヲ超過スルコトヲ得ス

第四章 営業
第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限り不動產ヲ抵當トシ又ハ地金銀若ハ國債證券地方債證券ヲ質トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ不動產抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當ナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續ズヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保険付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動產又ハ不動產ヲ添抵當ト

爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動產ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遲延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手數料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還残額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相

當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動產ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル、場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動產ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ日本勸業銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セルノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セルノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテ延滯金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工銀行法ニ依リ設立シタル各農工銀行ノ發行スル農工債券ヲ引受クルコトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券ヲ引受ケムトスル場合ニ於テ農工銀行ノ業務及財產ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第三十一條 日本勸業銀行ハ地金銀又ハ有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第三十二條 日本勸業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券得

地方債證券ヲ買入レ又ハ日本銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 日本勸業銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第五章 勸業債券

第三十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂

込金額ノ十倍ヲ限リ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高及其ノ引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十五條 勸業債券ハ券面金額ヲ五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第三十六條 日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金及其ノ引受ケタル農工債券ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但シ其ノ方法及金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 日本勸業銀行ハ勸業債券借換ノ爲一時第三十四條ノ制限ニ依ラス低利ノ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ勸業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十八條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滯シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケタル農工債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行解散ノ爲ニ全額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滯金額又ハ償還ヲ得サル農工債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第四十二條 勸業債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

第六章 準備金

第四十三條 日本勸業銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セレムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第七章 政府ノ監督及補助

第四十四條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十五條 日本勸業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリ

日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂

込金額ノ十倍ヲ限リ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高及其ノ引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第四十七條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當

金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十九條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第五十條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸付金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ毎營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セムトスルトキハ直接ニ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 大藏大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ置キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官ハ何時ニテモ日本勸業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ株主總會ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セサルトキハ政府ハ創立初季ヨリ十箇年間ヲ限り之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ其ノ額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第八章 罰則

第五十六條 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職

務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第十四條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但シ第三十七條

第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十六條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業

債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十八條 前二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

附則

第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作リ政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ日本勸業銀行總裁ニ引渡スヘシ

第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監查役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三箇年トス

設立初度ノ理事及監查役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

(國務大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル)

○國務大臣(子爵渡邊國武君) 日本勸業銀行及日本農工銀行ノ設立ノ旨趣ヲ

一括シテ辯明致シマスルガ要スルニ此銀行設立ノ要點ハ農工者ニ向ヒテ低利

ナル且ツ永年賦ナル農工者ニ適當ナル資本ヲ供セラルベキ資本ノ多ク農工業ニ

ハ是マデ商業銀行ノ中ニ於テ商業ノ資本ニ供セラルベキ資本ノ多ク農工業ニ

占領セラレテ居ツタノヲ解放シマシテ商業上ノ繁盛ヲ併テ圖リ得ルト云フ

ノガ大要デアリマス、尙ホ詳細ナル事ハ政府委員ヨリ辯明致シマスカラ十分ニ審議ヲ御盡シアツテ通過セラレンコトヲ希望致シマス

○藤村紫朗君 政府委員ニ一二點御尋ヲ致シタイ、此日本勸業銀行法案ノ最

モ骨子ト存ジマスルノガ不動産ヲ抵當トシテ貸付金ヲ爲スト云フ事デアリマス、即チ土地ヲ抵當ニスルト云フ事ガ最モ其必要ナ點デアルト考ヘマス、若

シ此法案ニシテ其土地ヲ利用シテ農工業者ノタメニ金ヲ貸付ケルト云フ事ガスル、然ルニ此他國ノ土地抵當銀行坏ノ法ヲ見マスルト銀行ガ貸付ヲ爲スニ當ツテ最モ信用スル所ノモノハ此土地ニアル其人ヤ其事業ハ第二ニ置イテア

ルヤウニ思ハレル、ソレデ既ニ土地ガ抵當ニ爲ツタ以上ハ土地其モノハ土地自身ガ生ズル收益ヲ以テ擔保ニ供シテ如何ナル場合ト雖モ其銀行ハ收益ヨリ公課額ヲ控除致シマシタ其殘リノ收益ハ其銀行ハ先取特權ヲ多クハ與ヘテ居ルヤウニ思ハレル、既ニ一度銀行ノ抵當ト爲ツタ土地ハ一箇ノ義務ト負擔トヲ有シテ其土地ハ縱令其賣買サレテモ土地ノ收益ヨリ公課額ヲ引イタ殘金ハ借受ケタ年賦償還金ニ對シテ其義務ヲ荷フテ行クト云フ方ニナツテ居ルヤウニ承知致シテ居リマス、此法案ハ矢張他國ノ土地抵當銀行抵當ノ法規ヲ參酌サレテ立案サレタモノト考ヘマスガ此法案ニ依ルト普通ノ抵當ト爲ツテ居リマス、是ハ多分調査ノ上ニ他國ノ例ニ依ルヨリ矢張普通ノ抵當スル方ガ銀行ノタメ若クハ借受ル人ノタメニ便宜デアルトカ或ハ利益デアルトカ云フ理由ガアルダラウト考ヘマスルガ本員ハソレヲ見出スコトガ出來マセヌデ其點ヲ先づ御説明ヲ願ヒタイノデス、尙ホ餘ニ一二御尋致シタイ事ガゴザイマスガ續イテ御尋致シマス

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマスデゴザイマスガ大體此勸業銀行農工銀行法案提出ニ就キマシテハ他國ノ例ヲ参考ニシナイデハゴザイマセヌケレドモ成ルベク我國ノ程度我國ノ現況ニ重キヲ置イタ譯ニアリマシテ、必ズ他國ニ有ル例ヲ直様用ヒルト云フコトハシナカツタノデアリマス、成程御尋ノ通ニ此抵當ノ上ニ銀行ガ確カナル權利ヲ有スルト云フコトハ最モ必要デアリマス、故ニ法案ノ第十六條ニハ「總テ第一抵當ナルコトヲ要ス」ト云フコトヲ掲ゲテ置キマシタノデ、此第一抵當權ヲ持ツテ居リマスレバ我國ノ一般ノ法律ノ規定ニ依リマシテ他ノ第二第三等ノ抵當ニ對シテハ餘程優タテ居ル權利ヲ持ツコトガ出來マスル故ニ是デ満足シテ可ナリト云フ考デアリマシテ或ハ先取權ヲ有スルトカ或ハ轉々賣買シテモ其抵當權ハ動カヌトカ云フ規定ハ必要ガナイト存シマシテ此第十六條ダケノ規定ヲ以テ満足シテ居ル譯ニアリマス

○藤村紫朗君 尚ホ續イテ御尋ヲ致シマスルガ農工銀行法案ニ……

○議長(侯爵蜂須賀茂龍君) 農工銀行法案ニハマダ移ツテ居リマセヌ

○藤村紫朗君 イエ、之ヲ比較ニ取ツテ御尋ヲスルノデゴザイマスガ申述べ上テ間違ツタラ御察當ヲ受ケマス……農工銀行法案ノ第二十一條ニ貸付ケタ目的ニ反シテ貸付金ヲ使用シタトキニハ償還期限前ト雖モ償還ヲ求ムルコトヲ得ルト云フコトガゴザイマスガ日本勸業銀行法案ニハ此箇條ガ見エナイノデ聊カ疑フ起スノデゴザイマス、農工銀行法案ニハ法律ヲ以テ期限前ト雖モ償還ヲ求ムルコトヲ得ルト云フコトヲ規定シテ日本勸業銀行ニ其事ガ無イト云フト請求スルコトモ出來ナイ、或ハ又請求シタ所デ借りタ方デハソレヲ拒ムト云フ事ニ爲リハセヌカ、兎ニ角同ジヤウナ性質ノ法案デアツテ一ハ

唯大仕掛ノ仕事ヲサセルト云フ法案、一ハ地方ノ小仕掛ノ仕事ニ向ツテ貸付ケヲ爲スト云フ法案、大體ニ於テハ達ヒマセヌガ其規定ガ一方ニハ有ル、一方ニハ無イト云フノハドウ云フ譯ニアリマスカ少シク疑フ存スルノデアリマス、其點ヲドウゾ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(添田壽一君) 藤村君ニ御答致シマスルガ御尤ナル御質問デゴザイマス、丁度藤村君ノ御話ノ中ニ見エマシタ通、日本勸業銀行ハ主トシテ大仕掛ノ事業ヲ目的トスルモノデアリ、又農工銀行ハ小仕掛ノモノヲ相手ト致スモノデアルト云フ所ニ此規定ノ差ヲ生ジタル原因ガ存スルノデゴザイマス、既ニ大仕掛ノ事業デゴザイマスレバ別段借りマシタ後トテ目的以外ニ使フト云フヤウナル懸念ハナインデゴザイマス、又日本勸業銀行ハ政府ノ直接ノ監督ノ下ニ居リマシテ監督ノ限ガ直接ニ及ビマスルカラ即チ其第一條ニ於テ農業工業ノ改良發達ト云フコトノ目的デ資金ヲ貸付セニヤナラスト云フコトハ無論銀行ガ守ル義務デゴザイマスル故ニ此義務ヲ犯スト云フコトハナインデゴザイマス、ソレヲ犯ス場合ニハ監督スル道ハ直ニ得ラル、キ意味ノ規定ハ設ケサセタイト云フ希望デゴザイマスルガ別段是ハ法律ヲ以テセズトモ銀行ガ已レノ利益上カラ即チ償還金ノ滞リヲ防ギタイト云フ考カラ其事ヲ怠ラナイデアラウト云フ考ヲ以テ設ケナカツタノデゴザイマス、農工銀行ノ方ハ各地方ニ散亂モ致シテ居リマスルシ監督ノ便モ幾ラカ間接ニナリマスルト云フ所カラ殊更ニ法律ニ規定シタ譯デゴザイマス

○藤村紫朗君 尚ホ御尋致シマスルガ稍々御答テ分リマシタガ本員ノ疑ハ監督ノ居ク居カヌト云フノデハナインデス、法律ニ一方ニハ期限前ト雖モ償還ヲ求ムルコトヲ得ルト規定シ、一方ニハソレガ無イト云フト兩銀行ノ權利ノ差ガアルヤウニ感ズルノデス、今ノ御答デ見ルト日本勸業銀行ノ方ニハ定款ヲ以テ同様ナ項ヲ規定サセル積ダト云フコトデゴザイマシタガ、サウ致シマスルト法律ト銀行ノ定款トガ同様ナ效力ヲ持ツト云フ考ヲ持ツノデス、併シ私ノ考ヘル所デハ定款ナルモノハ銀行ノ取極メデアツテ法律ハ之ヲ遵守セシメルノ效力ガアルモノデアルノデ定款ト法律トハ少シ違ヒハセヌカト思ヒマスガ如何デゴザイマスカ、尙ホドウゾ御説明ヲ請ヒマス

○政府委員(添田壽一君) 藤村君ニ御答致シマスガ勿論法律ト定款トハ其效力ニ於テ差ガアルト云フコトハ御説ノ通テゴザイマス、定款ニ規定サセルト申シタノハ即チ契約ヲ以テ若シ目的以外ニ使用スレバ期限前ト雖モ償還ヲ命シマスルゾト云フ規定ヲ設ケサセルト云フ事ニ爲リマシテ別段契約ノ力ニ依ツテヤル事デゴザイマセヌカラ其差ハ申上ゲマセヌデモ御了解下サルコト

○藤村紫朗君 モ一度些細ナ事デゴザイマスガ第十四條ノ二項ニ「日本勸業

銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分ノニ相當スル金額ヲ限り云々」ト云フコ

トガゴザイマスガ本員ノ考ヘルニ此年賦ノ償還貸付金額ト云フモノハ時々總
金額ニ狂ヒガ出ルダラウト思フノテ之ヲ以テ之ヲ標準トシテ其十分ノニ相
當ナル金額ヲ限フテ此動産…不動産又ハ金銀公債證券ノ如キモノヲ抵當ト
シテ貸付スルコトヲ得ルト云フノハ實際餘程不便ハ有リハシマイカ年賦償還
貸付金ノ十分一ガ狂フト若シ償還スルト貸付ヲ取立テナケレバナラムト云フ

又事實ニ於テ期限前迄ニ係ツテ居ルト取立テ得ラヌト云フ事ガ有ハセヌ
カ、免ニ角一定デナイ、年賦償還貸付金ノ總高ノ十分ノ一ト云フ標準ハ不便
デハナイカト云フ考デゴザイマスガ、是ハドウ云フ御考デゴザイマセウカ一
應御尋シマス

○政府委員(添田壽一君) 是又御尤ナル御尋デゴザイマスガ年賦償還貸付
申シマスルノハ御承知アラセラレマスル通、餘程是ハ規則立タモノデゴザ
イマシテ、豫メ償還期限モ定ツテ事實ヲ假想シテ申上ゲマスルト殆ド表ノ如
キモノヲ作ツテ明ニ何年ニハ何ンボ貸シ何年ニハ何ンボ残ルト云フ計算が出来
ル程是ハ正確ナモノデゴザイマスカラ動クモノデハゴザイマセヌ殆ド確定
ト云フテ見込ノ附キ得ルモノデゴザイマス、併シ御説ノ通ニ丁度是ト同額ニ
即チ十分ノ一ト云フ中ニ相當スル額マニヤツテ居リマスルト或ハ御尋ノヤ
ウナ懸念モゴザイマスルカラ成ルベク此金額ヲ限ルト云フ文字ガ示スガ如ク
十分ノ一以内ニ致シマシテ其貸付金高ト此政府償還ノ高トハ餘程高ノユトリ
ヲ取ツテ置ケバ別段差支ナイ積デゴザイマス

○藤村紫朗君 尚ホモウ一箇條御尋ヲ致シマス、第十三條株主ノ議決權ノ事
デゴザイマス「十株ニ付キ一箇トス但云々」ト云フコトガゴザイマスガ、是
ハ一株以上九株マデハ權利ナキモノト御認メデゴザイマスカ、其株主ニシテ
一株以上九株マデノモノハ議決權ヲ持タナイト云フコトハドウ云フ理由デゴ
ザイマスカ疑ガアルノデゴザイマス

○政府委員(添田壽一君) ソレハ現ニ成立シテ居リマスル日本銀行ノ例ニ
依テヤリマシタノデゴザイマシテ斯ノ如キ大會社ニ於キマシテハドウモ其

已ムヲ得ナイ事ト存ジマスノデ、即チ今御話ノ通ニ十株ニ満タスケレバ一ツ
ノ議決權ヲ有セナイト云フ結果ニハ爲ルノデゴザイマスガ斯ノ如キ巨大ナル
會社ニ於テハムヲ得ナイ事ニアラウト存ジマスルノデゴザイマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ審査ヲ付託スペキ特別委員ノ選舉ニ移リ
マス
○男爵中川興長君 本案ノ特別委員ハ議長ニ於テ選定アラシコトヲ望ミマ
ス
○伯爵大原重朝君 贊成
○藤村紫朗君 本員ハ此日本勸業銀行法案、農工銀行法案、同ジク補助法
案、此三案ノ如キハ殆ド此戰後經營ノ問題中デ最モ其價値アルモノト認メテ
居リマスルデ斯ク價值アルモノデゴザイマスレバ尙ホ更慎重ニ審査スルコト
ヲ致シタイ、ソレデ既ニ各課稅法案迄デハ特別委員十五名トセラレテ居リマ
スルガ願クハ此案ニ對シテハ矢張十五名ト委員ヲ致シタイト思ヒマス、選舉
ノコトハ矢張議長ニ御委託致シタイ

○水之江浩君 藤村君ノ十五名說ニ贊成

○吉村角次郎君 藤村君ノ十五名說ニ贊成

○梅原修平君 藤村君ニ贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 藤村君ヨリ委員ヲ十五名ニシテ選舉ハ議長ニ託
スルト云フ御説ガゴザイマス、中川男爵ヨリ議長ニ託スル…是ハ單ニ議長
ニ託スルト云フダケノ動議デゴザイマス、藤村君ノ委員ヲ十五名ニシテ選定
ハ議長ニ託スル此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數ト認メマス、次ニ農工銀行法案、政府提出
衆議院送付、第一讀會ヲ開キマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマス
ハ議長ニ託スル此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數ト認メマス、次ニ農工銀行法案、政府提出
衆議院送付、第一讀會ヲ開キマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマス
ハ議長ニ託スル此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

農工銀行法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付
候也

明治二十九年三月十四日

衆議院議長楠本正隆

○農工銀行法
(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

第一章 總則

○貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

第一條 農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的ト
スル株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十

圓トス
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ審査ヲ付託スペキ特別委員ノ選舉ニ移リ
マス

○農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但土地ノ情況
ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコ

第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限トス

第四條 農工銀行ノ營業區域内ニ原籍及住所ヲ有スル者ニ非サレハ其ノ株主トナルコトヲ得ス

株主ニシテ農工銀行ノ營業區域外ニ原籍又ハ住所ヲ移轉スルコトアルモノ見込アルモノニ限ル

第五條 農工銀行ノ營業區域内ノ府縣郡市町村モ亦其ノ株主タルコトヲ得

第二章 營業

第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 三十箇年以内ニ於テ定期及年賦償還ノ方法ニ依リ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト

二 市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ三十箇年以内ニ於テ無抵當ニテ定期及年賦償還ノ貸付ヲ爲スコト

三 農業者又ハ工業者ニ對シ其ノ生產ニ係ル物品ノ賣買ヨリ生スル爲替手形ノ割引ヲ爲スコト

四 農業者又ハ工業者ニ對シ其ノ生產ニ係ル物品ノ荷爲替貸ヲ爲スコト

五 二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト

第六條 前條第一號第二號及第五號ノ貸付ヲ爲スハ左ノ事項ニ使用スルヲ目的トスルモノニ限ル

一 開墾、排水、灌溉及耕地土質ノ改良

二 耕作道路ノ築造又ハ改良

三 殖林事業

四 種苗、肥料其ノ他農工業用原料ノ購入

五 農工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入

六 農工業用建物ノ築造又ハ改良

七 前各項ノ外農工業ノ改良

第八條 農工銀行ニ於テ不動產抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動產又ハ不動產ヲ添抵當ト爲ス

場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十條 不動產ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十一條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平均ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 債務者年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遲延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手數料ヲ要求スルコトヲ得

第十六條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遲延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ增抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還期間前ト雖貸付金全額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

二十條 農工銀行ハ抵當不動產ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル、場合ニ於テ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動產ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過ギ之ヲ拂込マサルトキハ農工銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

公共團體ニ命令シテ延滞金及第十四條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ
第二十一條 農工銀行ハ第六條第一號及第五號ノ貸付ヲ爲シタル場

合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用スルトキハ償還期限前

ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十二條 農工銀行ハ定期預り金ヲ爲シ又ハ地金銀有價證券ノ保護預リ

ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 農工銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方

債證券及勸業債券ヲ買入レ又ハ他ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

二十四條 農工銀行ハ日本勸業銀行ノ代理店タルコトヲ得

二十五條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第三章 農工債券

二十六條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金

額ノ五倍ヲ限り農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヲ

超過スルコトヲ得ス

二十七條 農工銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回

以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ

二十八條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十六條ノ制限ニ依ラス

低利ノ農工債券ヲ發行スルコトヲ得

二十九條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十六條ノ制限ニ依ラス

低利ノ農工債券ヲ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ

發行券面金額ニ相當スル舊農工債券ヲ償還スヘシ

三十條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕

拂フヘシ

三十條 農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セ

タルトキハ第二十七條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額ニ相當

スル農工債券ヲ償還スヘシ

三十一条 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金

ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

三十二条 農工債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條

ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテ明治二十八年法律第二十八號通貨

及證券模造取締法ニ依リ處分ス

三十三条 農工債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法

律第六十號ヲ適用ス

第四章 準備金

三十四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分

ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上
ヲ積立ツヘシ

第五章 政府ノ監督及補助

三十五条 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

三十六條 農工銀行ノ定期預款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セムトスル

トキモ亦同シ

三十七條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏

大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトス

ルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

三十八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ

分配ヲ爲スコトヲ得ス

三十九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定期預款ニ背戾シ若ハ

公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景

況及計算報告書ヲ差出スヘシ

四十一條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金

額及方法ヲ制限スルコトヲ得

四十二條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ毎營業年度ノ初ニ於テ大

藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セムトスル

トキモ亦同シ

四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ

大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

四十四條 農工銀行監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿

及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ

命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得ス

農工銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スル

コトヲ得但シ議決ノ數ニ加ヘルコトヲ得ス

四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百

圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルト

三 第二十三條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ
 四 第二十五條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ
 五 第二十六條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條
 第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償
 還ヲ爲サルトキ
 七 第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ
 第四十七條 前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ
 命令ニ對シテ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
 過料ノ辨納ニ付キテハ取締役連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

附則

第四十八條 府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ設立委員ヲ置キ農工銀行設
 立ノ免許ヲ得ルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
 第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作リ政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス
 第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ
 差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ農工銀行取締
 役ニ引渡スヘシ

第五十二條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法
 律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リ
 マス

○水之江浩君 本案ハ勸業銀行ト同一委員ニ付託致シタイト思ヒマス

○瀧口吉良君 贊成
 ○關田可通君 贊成
 ○飯淵七三郎君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 水之江君ヨリ本案ハ前案ト同一委員ニ付託スル
 此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ農工銀行補助法案、政
 府提出、衆議院送付、第一讀會ヲ開キマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマス

(有賀書記官朗讀)

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

農工銀行補助法案

明治二十九年三月十四日

農工銀行補助法案 第一讀會

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

農工銀行補助法

農工銀行法ニ依リ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲政府ハ豫
 算ニ定ムル所ニ從ヒ其ノ營業區域ヲ管轄スル府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ其ノ
 株式引受資金ヲ交付ス

前項ノ交付金額ハ該府縣ノ宅地鑛泉地池沼ヲ除キ有租地反別百町ニ付七
 十圓以内トス但如何ナル場合ニ於テモ一府縣ニ交付スル總額三十萬圓ヲ
 超過シ又ハ農工銀行拂込資本金ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 北海道及沖繩縣ニ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲其ノ創立
 初季ヨリ十箇年ヲ限リ政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ北海道ノ農工銀行ニ
 二萬五千圓以内沖繩縣ノ農工銀行ニ五千圓以内ヲ毎年交付ス但農工銀行
 ノ拂込資本金額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 府縣ハ第一條ノ交付金ヲ農工銀行ノ株式引受ニ供スルノ外他ニ使
 用スルコトヲ得ス

第四條 此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シテハ農工銀行ハ其ノ
 創立初季ヨリ五箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス
 前項ノ期限經過後仍五箇年間ハ農工銀行ハ前項府縣引受ノ株式ニ對スル
 配當金ヲ悉皆準備金ニ繰入ルヘシ

第五條 農工銀行ハ前條ノ期限ヲ經過シタル後ハ此ノ法律ニ依リ府縣ノ引
 受ケタル株式ニ對シ他ノ株式ト同一ノ利益配當ヲ爲スヘシ
 前項ノ配當金ハ府縣ノ收入ニ繰入ル、モノトス

第六條 府縣ハ此ノ法律ニ依リ其ノ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ離權スル
 コトヲ得ス但第七條ノ場合ハ此ノ限ニアラス
 第七條 農工銀行創立初季ヨリ十箇年經過ノ後府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ
 經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ得テ此ノ法律ニ依リ引受ケタル農工銀行
 ノ株式ヲ市町村ニ交付スルコトヲ得
 市町村ハ前項ニ依リ交付セラレタル農工銀行ノ株式ヲ基本財產ト爲スヘ
 シ

(藤村紫朗君發言ヲ求ム)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 藤村君ハ御質問デスカ

○藤村紫朗君 少シ御尋致シタウゴザイマス、此第一條ノ第二項デゴザイマ

ス、七十圓以内ト云フ事ト拂込資本金ノ三分ノ一ト云フ事ニ就イテ、御尋致シマス、本員ガ此補助法案ヲ解スル所ニ依ルト有租地段別ヲ標準トシテ補助サレルノデアルガ併シ其額ハ三十萬圓ヨリ超過スルコトガ出來ナイト云フノハ大縣杯ハ四十万五十万ト爲ル所ガ有ルヤウニ思ヒマスカラ之ニ制限ヲ置カレタト考ヘル、ソレ等ノ時ノタメニ七十圓以内ト云フコトヲ御附ケニナツタノカ、豫テ承レバ此金額ハ凡ソ一千萬圓ト云フ御見込デアツテ有租地段別ガソレニ適當シテ居ルト云フ御説明杯ガ衆議院デ有ツタヤウデアリマスガ、ソレナラバ七十圓トシテモ宜イカト思ヒマス、ソレガ以内ト云フコトノアルノガ少シ分リ兼ネル、是ハ三十萬圓ヲ超過スルヲ得スト云フコトノタメニ以内ト云フコトガ書イテアルノカ、斯ウ解シマスルガ、如何デゴザイマス、又拂込資本金ノ三分ノ一ト云フコトガ少シ分リ兼ネマス、デ一例ヲ舉ゲテ御尋致シマスルガ、六十萬圓ノ資金ノ銀行ガ出來ル、然ルニ御承知ノ如ク大概初ヨリ全部ノ拂込ヲスルモノデハナイ、必要ニ應ジテ漸次二三回ニ分ツトカ四五回ニ分ツトカ云フ拂込ガ通例ニナツテ居ル、ソレデ六十萬圓全部拂込ヲ爲サズシテ其四分ノ一ノ十五萬圓ト云フモノヲ拂込ンデ先ヅ業ヲ開クト云フ時ハ其三分ノ一ノ五萬圓ホカ交付サレナイト云フノデアリマスカ、資本金ト云フモノハ拂込マナイ資本金ト云フモノハ無イ譯デ、遲カレ早カレ拂込ミハスルト云フモノデアルカラ六十萬圓ニ對スル三分ノ一ト云フコトデアルカ、其點ガ少シ分リ兼ネマスデゴザイマスガ

○政府委員(添田壽一君) 御答致シマスル、此第一ノ御尋ノ七十圓以内ト云フコトハ別段深イ原因ノアル譯デハゴザリマセヌ、先ヅ七十圓カツキリト云フコトニ御承知ヲ願ヒタインゴザリマス、ソレカラ第二ノ御尋ノ六十萬圓ノ會社デゴザリマスレバ矢張四分ノ一ノ拂込デ先づ營業ヲスル場合ニ於テハ此拂込ニ應ジテ國庫カラハ支出ヲスル譯デアルノデアリマス、例ヘバ御話ノ十五萬圓ノ事實ノ營業資本デゴザリマスレバ其矢張三分ノ一ダケニ相當スルダケノ外其時ニハ國庫カラハ支出ヲシナイデ總額デハ六十萬圓ノ三分一マデハ出シマスケレドモ自ラ拂込ニハ期節ガゴザリマスカラ其期節ニ應ジテ國庫ノ支出モ矢張分レテ出ル積デアルノデゴザイマス

○藤村紫朗君 尚ホ少シ御尋致シマスガ左スレバ是ハ府縣廳ガ株主ニ爲ルノデゴザリマスカラ國庫ノ交付ヨリナル株ニシロ又普通ニシロ株金ノ拂込ガ平等デナケリヤナラヌ詰リ此意味ハ六十萬圓ノ資金デアツタトキニハ其三分ノ一、即チ二十萬圓ノ額ヲ拂込メバ其四分ノ一ナラ四分ノ一マデ其上ニ五圓ノ拂込ナラ五圓ノ拂込ヲスルト云フ斯ウ云フ意味デゴザイマスカ、サウ承知シテ宣シイノデゴザイマスカ

○政府委員(添田壽一君) フレデ宜シイノデゴザリマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○子爵堤功長君 本案ノ特別委員ハ前案ト同一ノ委員ニ付託スル堤

○伯爵大原重朝君 贊成

○小原重哉君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ特別委員ハ前案ト同一ノ委員ニ付託スル堤子爵ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○子爵堤功長君 起立者

○伯爵大原重朝君 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半數デゴザイマス、次ニ復祿及復族祿ノ請願會議ヲ開キマス、請願會議ハ以前ノ例モゴザイマスルニ依ツテ簡便法ヲ以テ朗讀モ省キ起立モ省クコトニ致シマス

○公爵二條基弘君 例ニ依リマシテ便宜上一々説明モ省略致シマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 復祿及復族祿ノ請願
(左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下)

意見書案

復祿及復族祿ノ件

一 鳥取縣鳥取市梶川町土族小林フサ外八名呈出

二 三重縣桑名郡長島村平民三輪彦次郎外四十名呈出

三 愛媛縣越智郡櫻井村平民石原晋作外五名呈出

四 兵庫縣明石郡伊川谷村平民内藤敬戶外十七名呈出

五 同縣同郡明石町平民村正道外五十六名呈出

六 宮城縣仙臺市土穂士族松倉恂外十八名呈出

七 福岡縣久留米市莊島町平民笠與八外五百十二名呈出

八 茨城縣水戸市上市士族菅秀男外二百十二名呈出

九 滋賀縣滋賀郡大津町平民寺田周三郎外二十八名呈出

十 茨城縣水戸市上市士族藤田友也外三名呈出

十一 愛媛縣新居郡水見村平民十龜玄造呈出

右ノ請願ハ陳述スル所各多少ノ差異アレトモ要スルニ第一ハ裏ニ下賜セラレタル金祿公債證書右代乘率錯誤アルカ爲自カラ其ノ祿ヲ削減セラレタムヲ以テ之ヲ訂正シ其ノ不足額ヲ追給セラレムコトヲ請願シ、第二第三第

四第五ハ士族ニ列シ永世祿ヲ給セラルヘキ者ナルニ故ナクシテ其ノ族祿ヲ併セ失ヘリ故ニ之ヲ復舊セラレムコトヲ請願シ、第六ハ維新ノ際叛逆首謀ノ處斷ヲ受ケ除族没祿セラレタル者ノ相續者ニシテ襲ニ大赦ノ恩典ヲ蒙リ復族ヲ得タレハ他ノ國事犯罪者ト同シク金祿公債證書ヲ下賜セラレムコトヲ請願シ、第七ハ士族ニ列シ祿ヲ受クヘキ者ナルニ明治七年其ノ族祿ヲ廢除セラル故ニ之ヲ復舊セラレムコトヲ請願シ、第八ハ維新ノ際國事犯罪ニ因リ除族没祿ノ處分ヲ受ケシカ後大赦ノ恩典ヲ蒙リ復籍セラレタレハ之ニ伴フ所ノ金祿公債證書ノ下賜ヲ請願シ、第九ハ舊藩ニ於テ歸田法ヲ設ケ強テ歸農セシメラレシカ爲士族ニ列シ祿ヲ受クルヲ得ス後其ノ法ヲ廢シタレハ其ノ族祿ヲ復舊セラレムコトヲ請願シ、第十八曩ニ族祿ヲ廢除セラレタルハ全ク舊藩東ノ錯誤ニ出ルモノナレハ永世祿ニ相當スル金祿公債證書ノ下付ヲ請願シ、第十一ハ維新ノ際朝憲ニ悖リ家名斷絶セシニ後大赦ニ因リ復族ノ榮ヲ得タレハ之ニ伴フ所ノ祿ヲ復給セラレムコトヲ請願シ、第十二ハ士族ニ列セラルヘキ者ナルニ廢藩ノ際故ナクシテ民籍ニ降サレタレハ其ノ族ヲ復セラレムコトヲ請願スルモノニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト請決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊十二通及送付候也

明治二十九年三月 日

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 此意見書案ニ御異議ハナイト存ジマス、原案ニ決シマス、次ニ地價特別修正ノ請願會議ヲ開キマス

地價特別修正ノ件

意見書案

岐阜縣方縣郡石谷村平民大野元三郎外八十名呈出

排水器試驗場設置ノ件

意見書案

右ノ請願ハ岐阜縣ハ他府縣ニ比シ地租重ク方縣郡ハ縣内ニ在テ又重ク石谷

村ハ郡内最モ重シ而シテ本村ハ山間ノ孤村ニシテ土地瘠薄且ツ伊自良川ノ治水堤塘費ニ多額ノ負擔ヲ免レス然ルニ他村ニ比シ地租最モ重キヲ以テ改

租後村民ノ疾苦困弊益甚シ收穫表及地價比較表土地賣買實價ニ比シ其ノ懸隔スルヲ見ルモ亦以テ地租ノ重キヲ證スヘシ明治二十二年地價特別修正ヲ行ハレタルモ其ノ低減ノ度ハ郡一般ニシテ本村ニ限リ特別修正ノ特典ナキヲ以テ偏重ノ苦ハ依然隨伴シテ永ク苛重ノ負擔ヲ脫スル能ハス益村民ノ困苦ヲ増加スルヲ以テ特別ニ地價ヲ修正セラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト請決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是レ亦原案ニ決シマス、同縣豐浦郡豐西東村村長片山理明外二十八名呈出

意見書案

山陽鐵道線延長ノ件 山口縣佐波郡三田尻村平民吉武昌作外十四名呈出

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 同縣豐浦郡豐西東村村長片山理明外二十八名呈出
右ノ請願ハ我邦鐵道線路著々其ノ歩ヲ進メ山陽鐵道ノ如キモ漸ク三田尻ニ達セムトス地方人民ノ利便知ルヘキナリ然ルニ三田尻馬關間ノ鐵道未タ成ラサルハ豈遺憾ナラスヤ蓋シ馬關ハ交通運輸上樞要ノ地位タリ然ルニ鐵道未タ全通セサルハ實ニ國家經營上ノ缺典ト謂フヘシ故ニ速ニ之レカ敷設ヲ望ムトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト請決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊八通及送付候也

明治二十九年三月 日

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是レ亦原案ニ決シマス、同縣香取郡新島村平民大須賀權右衛門外三百二十三名呈出

意見書案

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 千葉縣香取郡新島村平民大須賀權右衛門外三百二十三名呈出
右ノ請願ハ新島組合耕地ハ皆水田ニシテ最モ米產ニ適スルモ土地低窪ニシテ常ニ浸水ノ厄ニ罹リ光熱空氣ノ浸透ヲ妨ケ土中ノ脫酸作用ハ作物ノ生育ヲ害スルコト夥シク殊ニ利根川ノ末流ニ瀕スルヲ以テ降雨ニ際スレハ河水暴溢万頃ノ稻田ヲシテ碧海ニ變セシム是ヲ以テ農家ハ一定ノ收穫ヲ豫期スル能ハス流離其ノ堵ニ安セサルノ悲境ニ沈淪スルモノ少カラス故ニ排水器ヲ耕地ニ利用セハ幾多ノ害ヲ排除シ旱魃ノ諸害ヲモ救フヲ得ヘシ然レトモ之ヲ購入ノ負擔ハ細民ノ能ク堪ユヘキニ非レハ國費ヲ以テ試ニ之ヲ設置シ耕地ノ諸害ヲ排除シ地方人民ヲシテ安堵就業ノ惠澤ヲ受ケシメラレタシ

トノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治二十九年三月 日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文殿

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是レ亦原案ニ決シマス、軍港及商港設置ノ請願會議ヲ開キマス

意見書案

軍港及商港設置ノ件

石川縣鹿島郡七尾町平民松井善四郎外七百八十五名呈出(三通)

右ノ請願ハ能登國七尾港ハ日本海ニ突出シ其ノ位置形狀遠ク新潟港ノ上ニ出ツ加フルニ海底水亦深ク灣内風波靜穩ナルヲ以テ常ニ大船巨艦ヲ輻湊セシムルニ足リ實ニ一大良港タリ蓋シ西班牙鐵道完成ノ期ニ至ラハ日露韓ノ貿易ハ更革ヲ來シ隨テ日本海方面ニ於テ益々通商運輸ノ頻繁ヲ生スルヤ明カナリ是ノ時ニ方リテ七尾ヲ以テ一大商港ト爲サハ北陸地方ノ產物ハ悉ク此ニ集リ直ニ海外ニ輸出スルヲ得ヘシ果シテ然ラハ從來ノ如ク貨物ヲ横濱神戸ニ輸送スルモノニ比シ其ノ便益日ヲ同シテ語ルヘカラサルナリ又軍事上ヨリ觀察スルモ其ノ天然ノ形勢最モ軍港ニ適セリ然ルニ此ノ良灣ヲ抛棄シテ顧ミサルハ東洋多事ノ今日ニ際シ警備上貿易上頗ル遺憾トスル所ナルヲ以テ速ニ商港軍港ト爲スニ必要ナル設計ヲ施サレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊三通及送付候也

明治二十九年三月 日

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

内閣總理大臣侯爵伊藤博文殿

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ原案ニ決シマス、電話施設普及ノ請願會議ヲ開キマス

意見書案

電話施設普及ノ件

岡山商業會議所會頭香川真一呈出

右ノ請願ハ本邦電話事業ノ進歩頗ル遲鈍ニシテ之カ應用ノ區ハ僅ニ少數ニ過キス故ニ其ノ必要ヲ知悉スルモ尙本未タ其ノ慶ヲ蒙ラサルノ地方人民ハ

其ノ施設ノ早カラントヨ欲スル情切ナリ故ニ是ノ時ニ方リ官設民設ノ如何ニ關セス治ク其ノ妙技ヲ利用スルニ至ラハ社會交通上ノ利轉瞬ヲ争フ地方工商業上ノ敏活ニ裨益ヲ與フル其ノ實利ノ莫大ナルノミナラス所謂戰後經營上最モ貴重ノ策ニシテ文明ノ光輝ヲ倍スルニ足ルヘシ故ニ從來布設ナキノ地方ヲシテ速ニ電話ヲ普及セシメ以テ地方人民ヲシテ文明ノ餘澤ヲ蒙ラシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治二十九年三月 日

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

内閣總理大臣侯爵伊藤博文殿

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是モ原案ニ決シマス、郡分合ニ關スル請願會議ヲ開キマス

意見書案

郡分合ニ關スルノ件

島根縣安濃郡大田村平民楫野權市外六十一名呈出

右ノ請願ハ島根縣安濃郡ハ邇摩郡ト合シテ一行政區ノ下ニ在リト雖地勢民情自ラ其ノ撰ヲ異ニシ全ク利害ヲ共ニシ難キモノ多ク同一制度ノ下ニ立ツヘカラサルナリ兩郡ノ關係此ノ如クナレハ依然合併セハ百般ノ事業上益々其ノ衝突ヲ來シ本郡民ノ不幸ヲ増加スヘシ故ニ本郡ヲ獨立セラレムコトヲ望ムヤ久シ而シテ本郡ハ其ノ資力等獨立自治ノ體ヲ具備スルニ足リ邇摩郡モ亦其ノ利益ヲ失ハス義ニ政府ノ第一期帝國議會ニ提出セラレタル法案ニ據レハ此ノ利害ヲ異ニスル兩郡ヲ合シテ一郡トナサムトスルモノ、如シ是レ本郡民ノ最モ恐ル、所ナリ故ニ本郡ノ爲獨立郡制ヲ施行セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治二十九年三月 日

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

内閣總理大臣侯爵伊藤博文殿

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是レ亦原案ニ決シマス、民法中修正案及日本勸業銀行法案外二件特別委員ハ直ニ指名ヲ致シマス、民法中修正案特別委員、侯爵黒田長成君、伯爵清棲家教君、子爵松平乘承君、子爵本莊壽正君、男爵樺村正直君、箕作麟祥君、小畠美稻君、兒島惟謙君、名村泰藏君、長松幹君、

村田保君、清浦奎吾君、菊池武夫君、小幡篤次郎君、山田莊左衛門君、日本勸業銀行法案外二件特別委員、伯爵松浦詮君、伯爵正親町實正君、伯爵萬里小路通房君、子爵酒井忠彰君、子爵新莊直陳君、男爵小澤武雄君、何禮之君、藤村紫朝君、平田東助君、宮島誠一郎君、宮崎總五君、中村良謙君、大塚永藏君、渡邊甚吉君、五十嵐敬止君、明日ノ議事日程ヲ御報告ニ及ビマス、書記官長ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

(中根書記官長朗讀)

午前十時開議

- | | |
|---|--------------|
| 第一 開港外ニ於テ外國貿易ノ爲メ船舶出入
及荷物輸出入ノ件ニ關スル法律案(政府提出衆
院送付) | 第一讀會ノ續(特別委員) |
| 第二 神奈川縣下郡廢置法律案(政府提出衆
院送付) | 第一讀會ノ續(長報告) |
| 第三 長崎縣下郡廢置法律案(政府提出衆議
院送付) | 第一讀會ノ續(特別委員) |
| 第四 新潟縣下郡界變更及郡廢置法律案(政
府提出衆議院送付) | 第一讀會ノ續(特別委員) |
| 第五 山口縣下郡廢置法律案(政府提出衆議
院送付) | 第一讀會ノ續(長報告) |
| 第六 和歌山縣下郡廢置法律案(政府提出衆
議院送付) | 第一讀會ノ續(特別委員) |
| 第七 福岡縣下郡廢置法律案(政府提出衆議
院送付) | 第一讀會ノ續(長報告) |
| 第八 佐賀縣下郡廢置法律案(政府提出衆議
院送付) | 第一讀會ノ續(特別委員) |
| 第九 宮崎縣下郡廢置法律案(政府提出衆議
院送付) | 第一讀會ノ續(長報告) |
| 第十 銀行合併法案(政府提出衆議院送付) | 第一讀會 |
| 第十一 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 | 第一讀會 |
| 第十二 移民保護法案(政府提出衆議院送付) | 第一讀會 |
| 第十三 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 | 第一讀會 |
| 第十四 靜岡縣下郡廢置法律案(政府提出衆議院送付) | 第一讀會 |
| 第十五 蛟阜縣下郡廢置及郡界變更法律案(政府提出
衆議院送付) | 第一讀會 |
| 第十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 | 第一讀會 |
| 第十七 愛媛縣下郡廢置法律案(政府提出衆議院送付) | 第一讀會 |
| 第十八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 | 第一讀會 |
| 第十九 水產業保護ニ關スル建議案(村田保君發議) | 會 議 |
| ○議長(侯爵峰須賀茂龍君) 本日ハ散會 | |
| 午後零時八分散會 | |